

平成6年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書

KUROTUTIDA

黒土田遺跡

AKAGI

赤木遺跡第2地点

KAMIMUTA

上無田遺跡

HIRANO

平野遺跡

KAMIMUGINO

上麦野遺跡

JODOZIYAMA

浄土寺山古墳

1995.3

延岡市教育委員会

序 文

延岡市は宮崎県の北部に位置し、県内でも最大を誇る工業都市であります。

昨年9月には、県北地区が「宮崎県北部地方拠点都市地域」の指定、さらに同年10月には一般国道10号延岡道路の都市計画決定を受け、関連する民間開発、公共事業等の大規模開発事業が計画されつつあります。このような状況に対応するため、市教育委員会では開発事業等の計画に際して、埋蔵文化財の確認調査等を実施しているところであり、本書はその報告書であります。

本書が埋蔵文化財への理解を深める一助になることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり県文化課をはじめ地権者の方々などのご協力を得ました。記して感謝いたします。

平成7年3月31日

延岡市教育委員会

教育長 松 坂 数 男

例 言

1. 本書は、延岡市教育委員会が国庫補助を受けて、平成6年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 本年度は、黒土田遺跡、赤木遺跡第2地点、上無田遺跡、平野遺跡、上麦野遺跡、浄土寺山古墳の発掘調査を実施した。
3. 本書に使用した遺物の実測、トレース、図面の作製については、山田聡、尾方農一、老岐広子、池田利光、甲斐佳代、甲斐千恵美、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子、渡部暁があたった。
4. 現場での写真撮影及び遺物撮影は各担当者が行った。
5. 黒土田遺跡出土の石器については、別府大学橋昌信教授にご教示をいただいた。
6. 方位は、磁北を向いている。
7. 本書の執筆は各担当者が行い文末にそれぞれ明記した。編集は山田があたった。
8. 出土した遺物は教育委員会で保管しており、今後展示公開の予定である。

本文目次

第I章 はじめに	1	第4図 黒土田遺跡基本層序図	5
1. はじめに	1	第5図 黒土田遺跡出土遺物実測図	5
2. 調査の組織	1	第6図 黒土田遺跡出土遺物実測図	6
第II章 調査の記録	3	第7図 舞野地区周辺遺跡分布図	7
1. 黒土田遺跡	3	第8図 赤木遺跡第2地点遺構配置図	9
(1) 位置と環境	3	第9図 赤木遺跡第2地点第2トレンチ土層断面図	10
(2) 調査に至る経緯	4	第10図 赤木遺跡第2地点第1トレンチ土層断面図	10
(3) 調査の概要	4	第11図 赤木遺跡第2地点出土遺物実測図	11
2. 赤木遺跡第2地点	7	第12図 野地・大貫地区周辺遺跡分布図	12
(1) 位置と環境	7	第13図 上無田遺跡調査区配置図	13
(2) 調査に至る経緯	8	第14図 上無田遺跡33号墳墳丘測量図	14
(3) 調査の概要	8	第15図 上無田遺跡B地点トレンチ土層断面図	15
(4) 出土遺物	11	第16図 平野遺跡第1トレンチ土層断面図	17
3. 上無田遺跡	12	第17図 平野遺跡位置図	18
(1) 位置と環境	12	第18図 平野遺跡調査区配置図	18
(2) 調査に至る経緯	15	第19図 片田・小野地区周辺遺跡分布図	19
(3) 調査の概要	15	第20図 上麦野遺跡調査区配置図	20
4. 平野遺跡	17	第21図 浄土寺山古墳周辺測量図(昭和52年度実測)	21
(1) 位置と環境	17	第22図 浄土寺山古墳墳丘測量図	22
(2) 調査に至る経緯	17	第23図 浄土寺山古墳後円部土層断面図	23
(3) 調査の概要	17	第24図 浄土寺山古墳出土遺物実測図	24
5. 上麦野遺跡	19	第25図 浄土寺山古墳出土遺物実測図	25
(1) 位置と環境	19		
(2) 調査に至る経緯	19		
(3) 調査の概要	20		
6. 浄土寺山古墳	21		
(1) 位置と環境	21		
(2) 調査に至る経緯	21		
(3) 調査の概要	25		
(4) 出土遺物	26		

表目次

第1表 平成6年度市内遺跡発掘調査一覧表	1
第2表 報告書抄録	

図版目次

図版1 黒土田遺跡	
図版2～4 赤木遺跡第2地点	
図版5～7 上無田遺跡	
図版8 平野遺跡	
図版9～10 上麦野遺跡	
図版11～12 浄土寺山古墳	

挿図目次

第1図 平成6年度発掘調査遺跡分布図	2
第2図 黒土田遺跡位置図	3
第3図 黒土田遺跡調査区配置図	4

第Ⅰ章 はじめに

1. はじめに

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、東経 131度32分45秒から東経 131度50分20秒・北緯32度43分32秒から北緯32度29分11秒の間にあり、面積は283.76平方キロメートルである。本市は、大正年間に設立された日本窒素肥料（現在の旭化成工業株式会社）等により発展し、昭和8年に市制を施行し、東九州有数の工業都市として知られている。現在、延岡市では都市基盤整備を重点的に進めて都市の活性化を推進させることを目的に、城山公園を含む川中地区の整備事業や公共下水道整備事業などが実施されている。さらに「宮崎県北部地方拠点都市地域」の指定や「一般国道10号延岡道路」の都市計画決定を受け、それらの関連事業が具体化しつつある。今年度の調査は、農業基盤整備、市道改良等を主に公共事業に伴うもので、これら開発事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るため発掘調査を実施した。

本年度の市内遺跡発掘調査は下記の6箇所を実施した。

遺 跡 名	所在地（延岡市）	調 査 原 因	調査面積	調 査 期 間
黒土田遺跡	細見町字黒土田	圃場整備事業	1,000㎡	平成6年6月22～8月31日
赤木遺跡第2地点	舞野町字赤木	駐車場建設	7㎡	平成6年6月29～30日
上無田遺跡	野地町字上無田	市道改良	30㎡	平成6年8月18～9月2日
平野遺跡	野地町字平野	中学校用地造成	60㎡	平成6年10月5～11日
上麦野遺跡	片田町字上麦野	市道改良	65㎡	平成6年11月1～4日
浄土寺山古墳	大貫町字浄土寺	倉庫、石垣建設	25㎡	平成6年11月7～29日

第1表 平成6年度市内遺跡発掘調査一覧表

2. 調査の組織

調査主体 延岡市教育委員会

教 育 長 松坂 数男

社会教育課長 大谷 建

文化係長 沖米田俊雄

庶務担当 吉永 綏子

調 査 員 山田 聡

尾方 農一

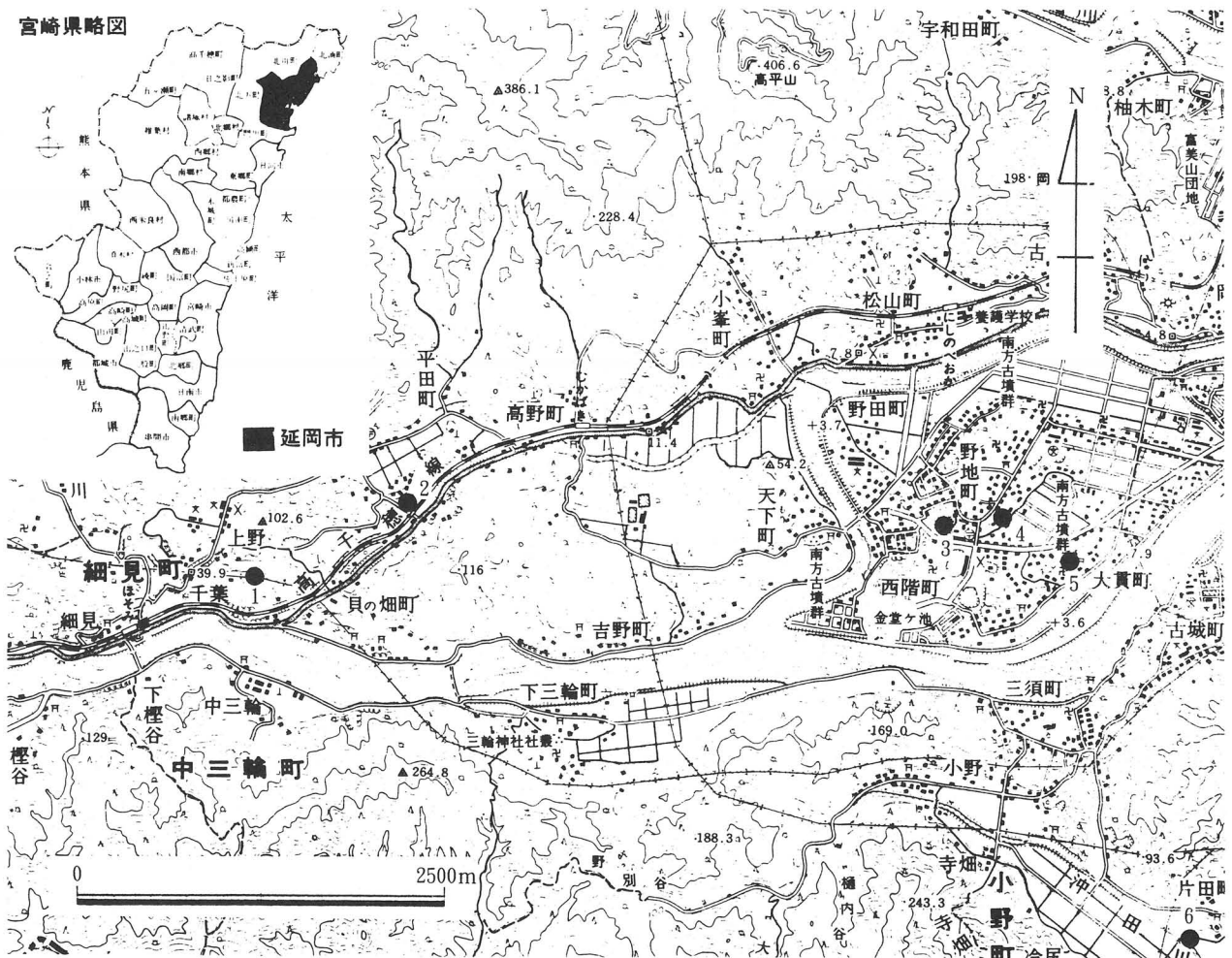
調 査 指 導 菅付和樹（県教育庁文化課埋蔵文化財第二係主査）

富士本伸二（県教育庁文化課文化財係主任主事）

調査作業員 安藤登美子、安藤盛正、飯干将志、大山礼子、小野愛子、甲斐カツキ、甲斐武夫、甲斐千枝子、甲斐利實、工藤幸一、工藤今朝子、久保利男、酒井巖、酒井キミ子、酒井清子、酒井初枝、酒井正志、酒井ミサ子、酒井義穂、塩崎龍二、白石睦子、須崎智子、田中秀樹、中城稔子、中城トネノ、野中彰、橋口和兄、林田裕子、牧野昭徳、牧野志保、山本サチ子

資料整理 壺岐広子、池田利光、甲斐千恵美、甲斐佳代、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子、渡部暁

この他に発掘現場では、林田和人君（宮崎大学学生）、柳田晴子君（琉球大学学生）の応援を得た。また、事前協議等にあたり市都市計画課、同耕地課、同土木課、同農林課、同耕地課、延岡市土地開発公社の方々にご協力をいただき、土地所有者の安藤宏氏、安藤盛正氏、甲斐輝朗氏、笠江孝一氏、染谷進氏、林田耕作氏には調査の過程において便宜をはかっていただいた。記して感謝します。



- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| 1. 黒土田遺跡 | 3. 平野遺跡 | 5. 浄土寺山古墳 |
| 2. 赤木遺跡（第2地点） | 4. 上無田遺跡 | 6. 上麦野遺跡 |

第1図 平成6年度発掘調査遺跡分布図

第Ⅱ章 調査の記録

1. 黒土田遺跡

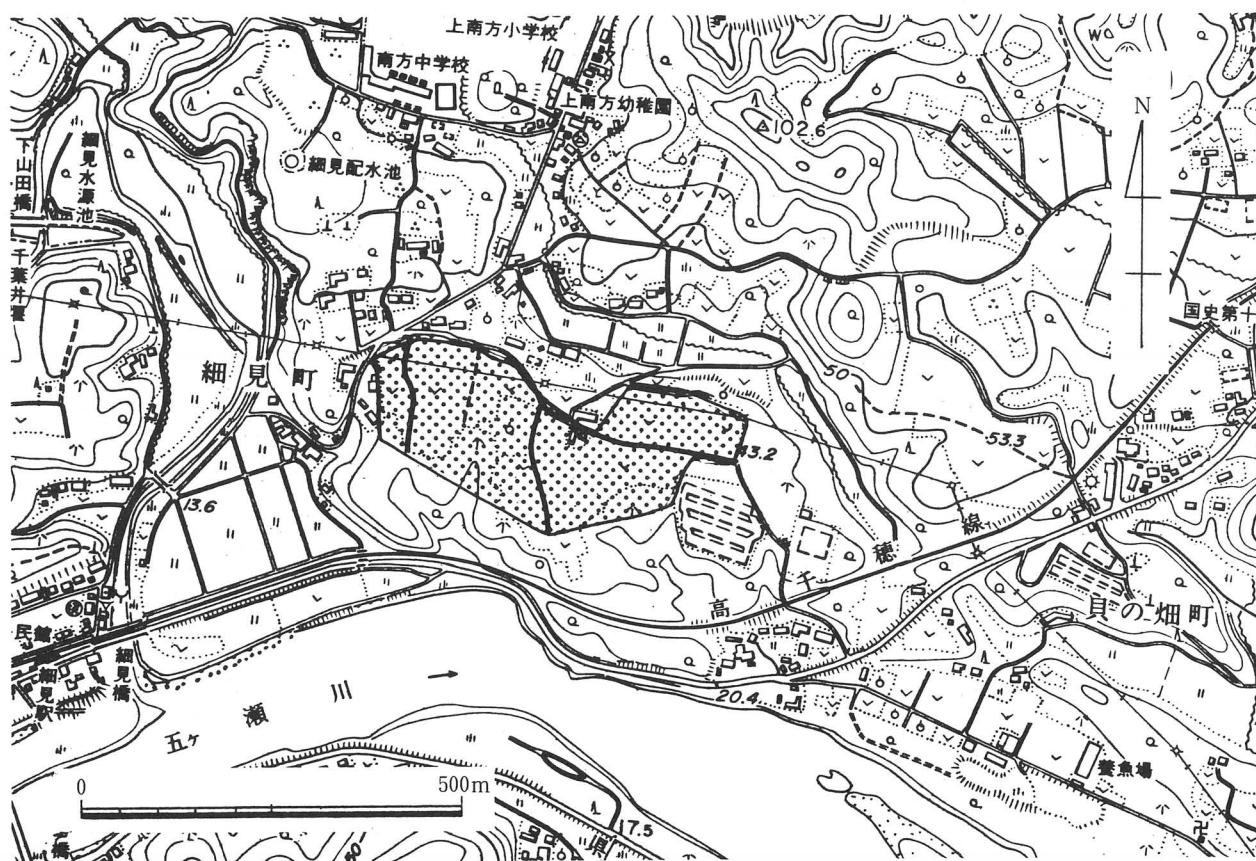
(1) 位置と環境

黒土田遺跡は細見町3285番地外（字黒土田）地内に所在する。

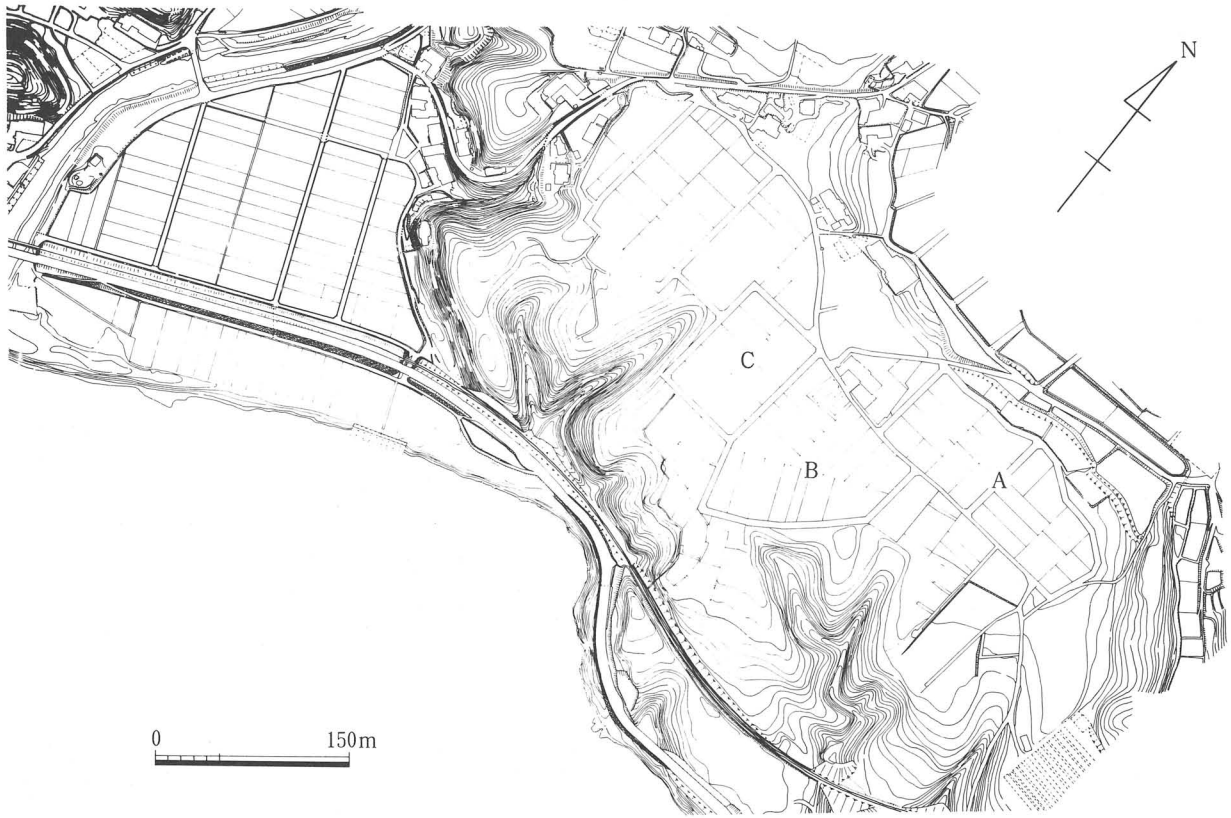
遺跡は五ヶ瀬川北岸の河岸段丘上に立地する。遺跡の所在する五ヶ瀬川北岸の南方地区には日当たりが良好で、五ヶ瀬川やその支流により水源にも恵まれた台地が広がっている。古くから遺物等が表採され“遺跡の宝庫”として知られる市内有数の包蔵地である。

遺跡周辺には1989年～1991年に調査が行われた上南方地区遺跡群が分布している。遺跡から細見川（五ヶ瀬川の支流）を挟んで西側台地に所在する中尾原遺跡は、弥生後期後半～古墳後期にかけての集落跡が検出され様々な鉄製品、磨製石包丁等の多数遺物が出土している。遺跡から細見川上流約1kmの左岸台地上の畑山遺跡は、先土器時代～中世にかけての複合遺跡である。また、畑山遺跡北西の微高地では山口遺跡の調査が行われ、古墳時代から近世にかけての遺構・遺物等が検出されている。

細見町から五ヶ瀬川下流約500mの舞野町には国指定史跡南方古墳群の舞野支群や1985年に調査された赤木遺跡等の遺跡が存在する。赤木遺跡は五ヶ瀬川流域の代表的な先土器時代の遺跡で、調査時に二つの文化層が検出されている。赤木第一文化層は「切り出し」型のナイフ形石器を中心とした石器群で、その上位の赤木第二文化層は細石器群である。特に第一文化層は瀬戸内地方の影響を受けた石器群として注目される。



第2図 黒土田遺跡位置図



第3図 黒土田遺跡調査区配置図

(2) 調査に至る経緯

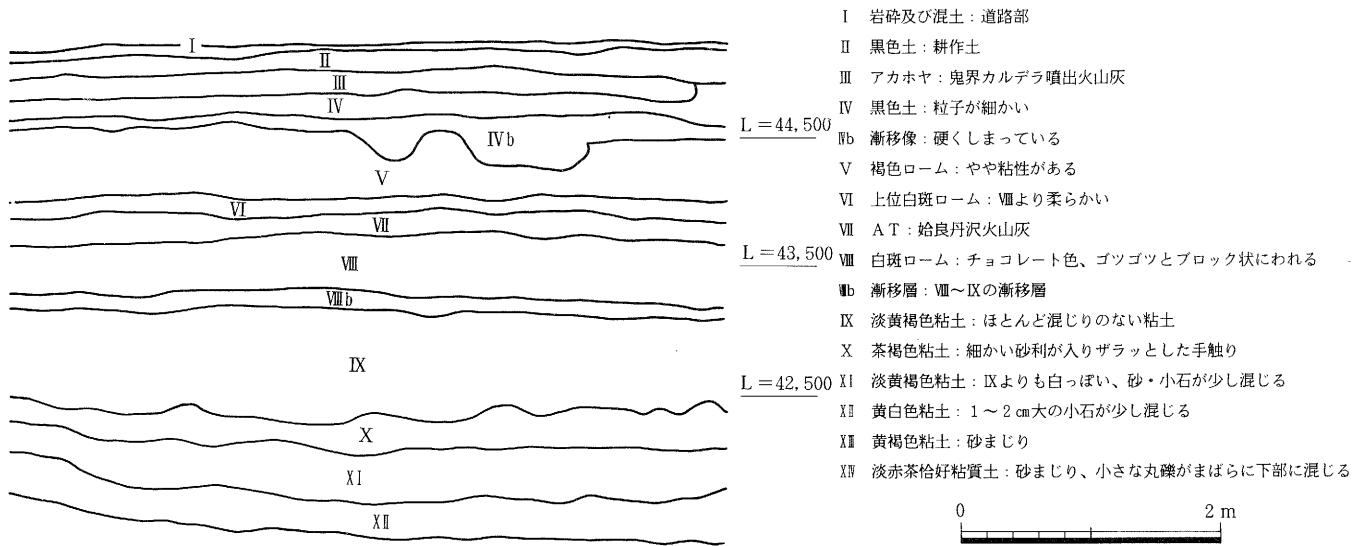
同地は農村基盤総合整備事業（細見地区）が行われた土地である。平成3年の市耕地課と教育委員会との協議の結果、また平成4年11月に確認調査が行われており、須恵器片や陶磁器片が出土、集石遺構も1基検出されている。その後、切土を行わず現況の畑地面を基本に事業が行われている。今回の調査は平成3年時の協議で決定されていた舗装される耕作道路部についての発掘調査である。

(3) 調査の概要

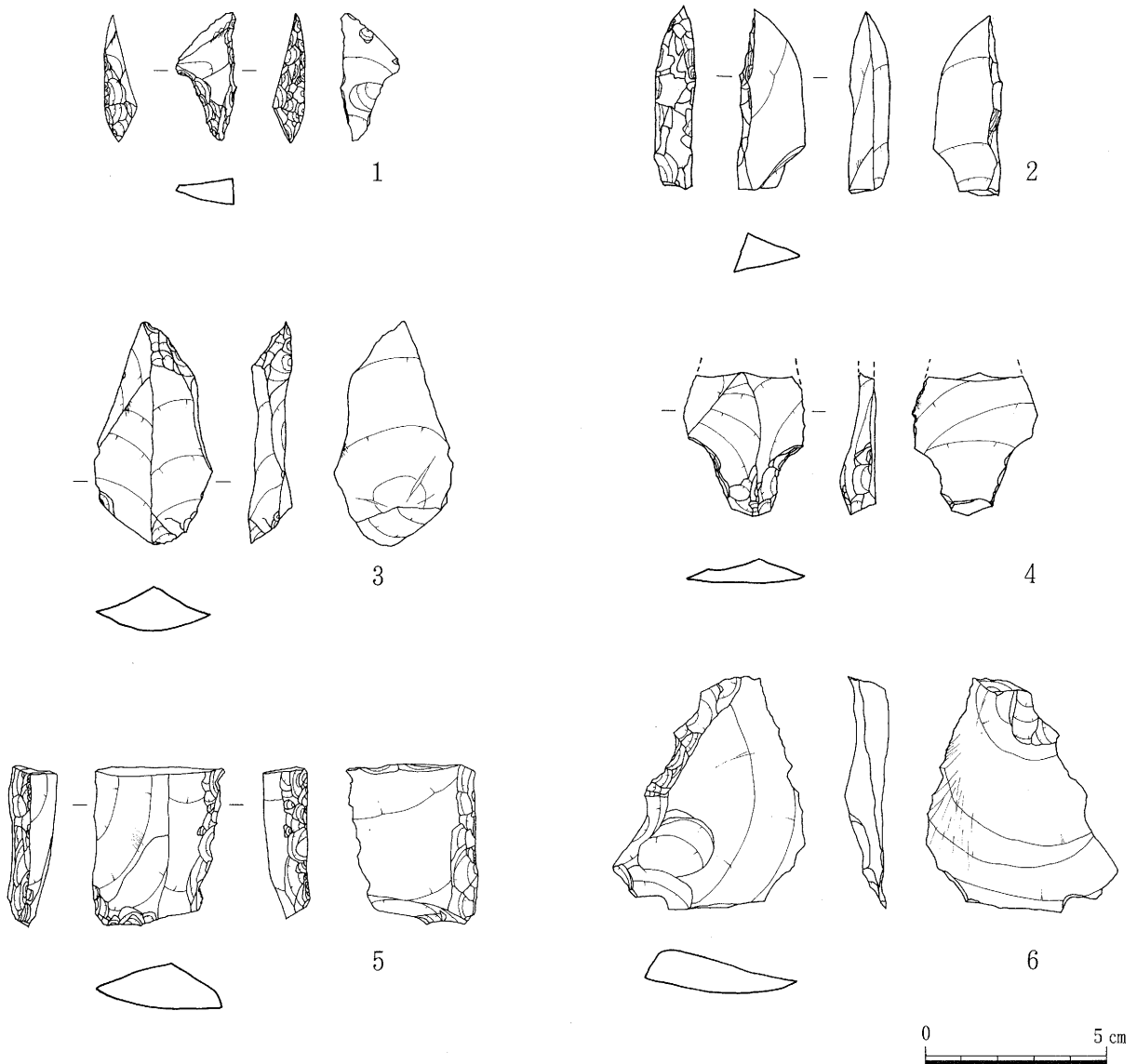
調査区をA・B・C・Dの4地区に分け、グリッド法を用い実施した。A地区は台地の東縁と北縁部を巡る道路部分にあたる。調査区の北縁部には旧石器が集中して出土している。特にナイフ形石器が48点出土しており当遺跡出土のナイフ形石器の殆どを占めている。また集石遺構2基、縄文早期の集石遺構2基、竪穴住居跡（弥生後期後半～古墳初頭）1軒等を検出している。B地区は台地平坦部から南縁を巡る道路部分にあたる。旧石器の出土は減るが、アカホヤ面で柱穴群と円墳周溝1、竪穴住居跡（弥生後期後半～古墳初頭）2軒が出土している。C地区は台地のほぼ中心の平坦部の道路で、若干の旧石器が出土している。D地区は台地の西側の南縁を巡る道路部分であるが、ここは若干の旧石器の出土のみである。

今回の調査では、ある程度の成果を得ることが出来たが面的な調査が行えず、遺跡全体の性格を把握する事はできなかった。この台地は遺構等の残りが非常に良好で、今後の開発では十分な協議と調査が必要である。

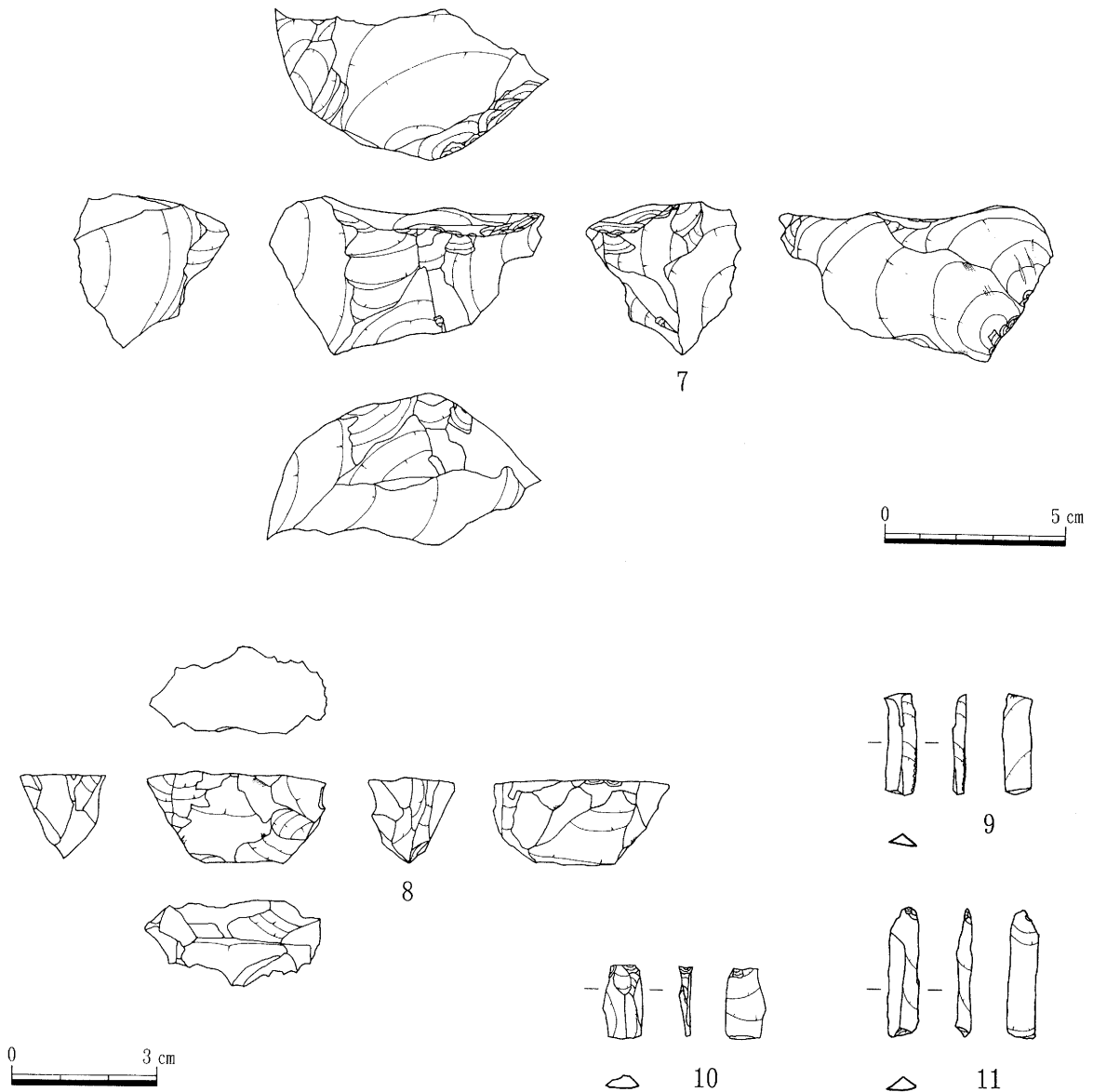
（尾 方）



第4図 黒土田遺跡基本層序図



第5図 黒土田遺跡出土遺物実測図



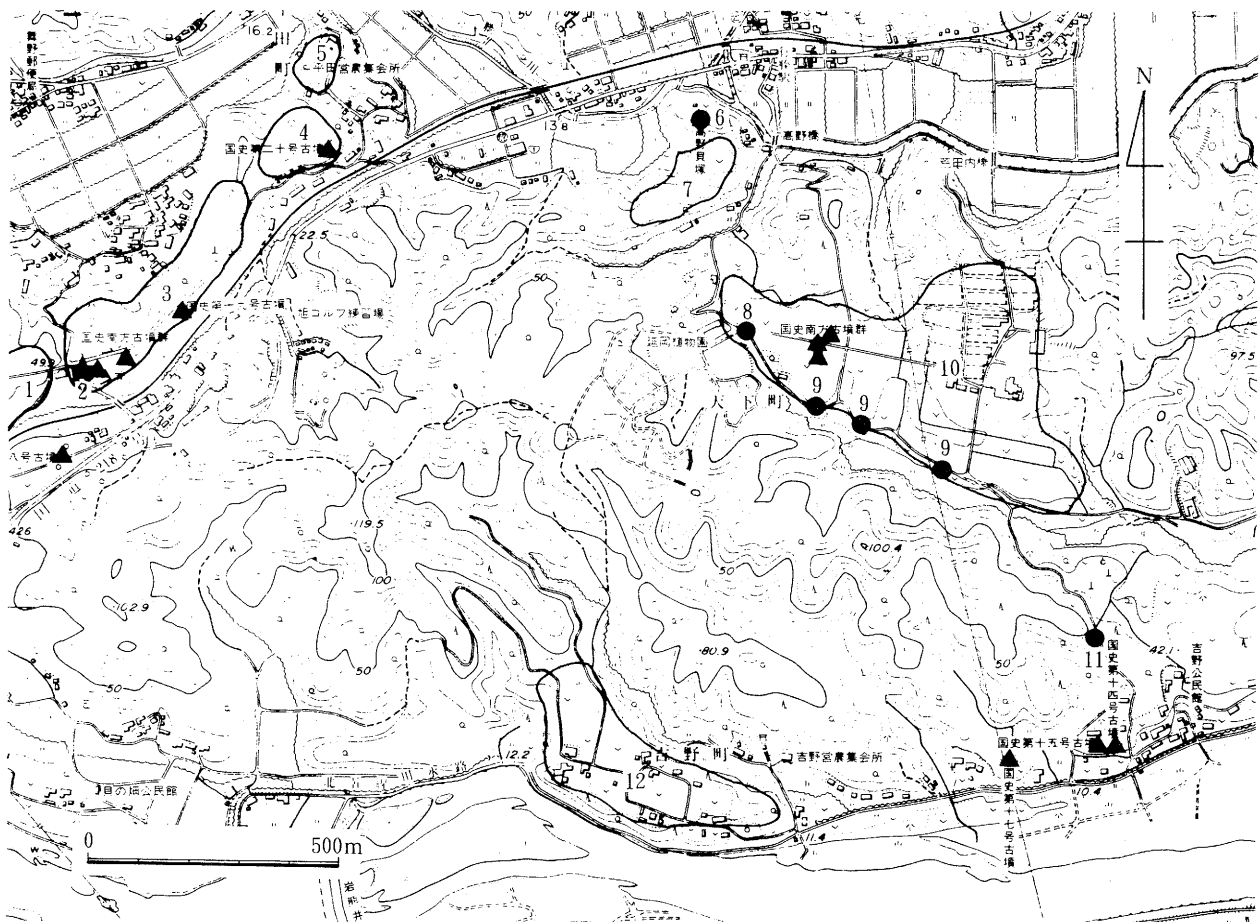
1. ナイフ型石器 (A 3 地区G 1) 祖母山火山岩類流紋岩 両側面に陵の無い剥片を使用
2. ナイフ型石器 (A 3 地区G 8) 祖母山火山岩類流紋岩 基部に挟りが入る
3. ナイフ型石器 (A 3 地区G 7) 祖母山火山岩類流紋岩 縦長の剥片を使用
4. 剥片尖頭器 (A 3 地区G 8) 祖母山火山岩類流紋岩 縦長の剥片を使用
5. スクレイパー (A 3 地区G 7) 祖母山火山岩類流紋岩 両面から刃部を造りだしている
6. スクレイパー (A 3 地区G 7) 祖母山火山岩類流紋岩
7. 石核 (C 2 地区) 祖母山火山岩類流紋岩 打面を90° 転移している
8. 細石核 (C 2 地区) 祖母山火山岩類流紋岩
9. 細石刃 (C 2 地区G 7) 祖母山火山岩類流紋岩
10. 細石刃 (A 3 地区G 1) 祖母山火山岩類流紋岩
11. 細石刃 (A 3 地区G 1) 祖母山火山岩類流紋岩

第 6 図 黒土田遺跡出土遺物実測図

2. 赤木遺跡第2地点

(1) 位置と環境

赤木遺跡第2地点は、延岡市舞野町1480-2外（字赤木）に所在する。当遺跡は、五ヶ瀬川支流の行藤川右岸に舌状に延びる丘陵上の標高約49mの地点に立地し、南側約80mには北東方向の開析谷があって、以前は滝（通称なる滝とよばれていた）が流れていた。当遺跡が立地する丘陵は、旧字名で東から平田、真藤、赤木、多々羅があって、赤木はその中央付近にあり、周辺には国史跡南方古墳群の舞野支群にあたる前方後円墳1基（消滅）と円墳5基が点在している。この支群は数回の調査が実施されている。このうち23号墳は、大正15年（1926）鳥居龍藏氏の発掘調査で組合せ式石棺が検出され、硝子製小玉等が出土している。また、昭和54年（1979）には19号墳の範囲確認調査が行われ周溝が確認されている。さらに当遺跡の南側は、昭和60年4月30日～同年



▲…国史跡 南方古墳群

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 多々羅遺跡 | 5. 平田遺跡 | 9. 今井野遺跡（2次） |
| 2. 赤木遺跡（第2地点） | 6. 高野貝塚 | 10. 今井野遺跡 |
| 3. 赤木遺跡 | 7. 長谷遺跡 | 11. 吉野遺跡 |
| 4. 真藤遺跡 | 8. 今井野遺跡（1次） | 12. 上野原遺跡 |

第7図 舞野地区周辺遺跡分布図

6月8日まで保育園建設に伴う事前調査が実施され、先土器時代から古墳時代の複合遺跡であることが判っている。特に先土器時代では、A T火山灰層の上位よりナイフ形石器を主体とする文化層（赤木Ⅰ）、細石器を主体とする文化層（赤木Ⅱ）が確認され、東九州でも有数な先土器時代の指標遺跡となっている。また、周辺地区は、現在実施中の遺跡詳細分布調査でも、先土器～古墳時代の表採資料が確認されており、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」として取り扱われている。

(2) 調査に至る経緯

平成6年5月20日、「上南方福祉会」から市教育委員会に対して、保育園駐車場建設に伴う文化財の所在の有無についての照会があった。市教育委員会では、隣接する保育園建設時に発掘調査を実施していること、予定地内に国史跡南方古墳群第21号、第22号墳が所在することから、申請者に対して事業内容について詳細な説明を求めた。それによると、隣接する借地を古墳にかからないように駐車場として現状のまま使用することであった。市教育委員会では、古墳を保存するうえで慎重な判断を要することから、県文化課に報告するとともに保存方法について再度協議を行った。協議には、市農林課、申請者、市教育委員会が出席した。その結果、以下のとおりで合意した。①古墳の墳丘及び予定地の現状は変更しない。②現在、古墳の周囲には標柱が巡っているが、市教育委員会が確認調査を実施して本来の墳丘範囲を確認し、その外側を駐車場として利用すること。③周辺には植栽をして環境整備を図ること。以上については県文化課にも報告し了承を得た。

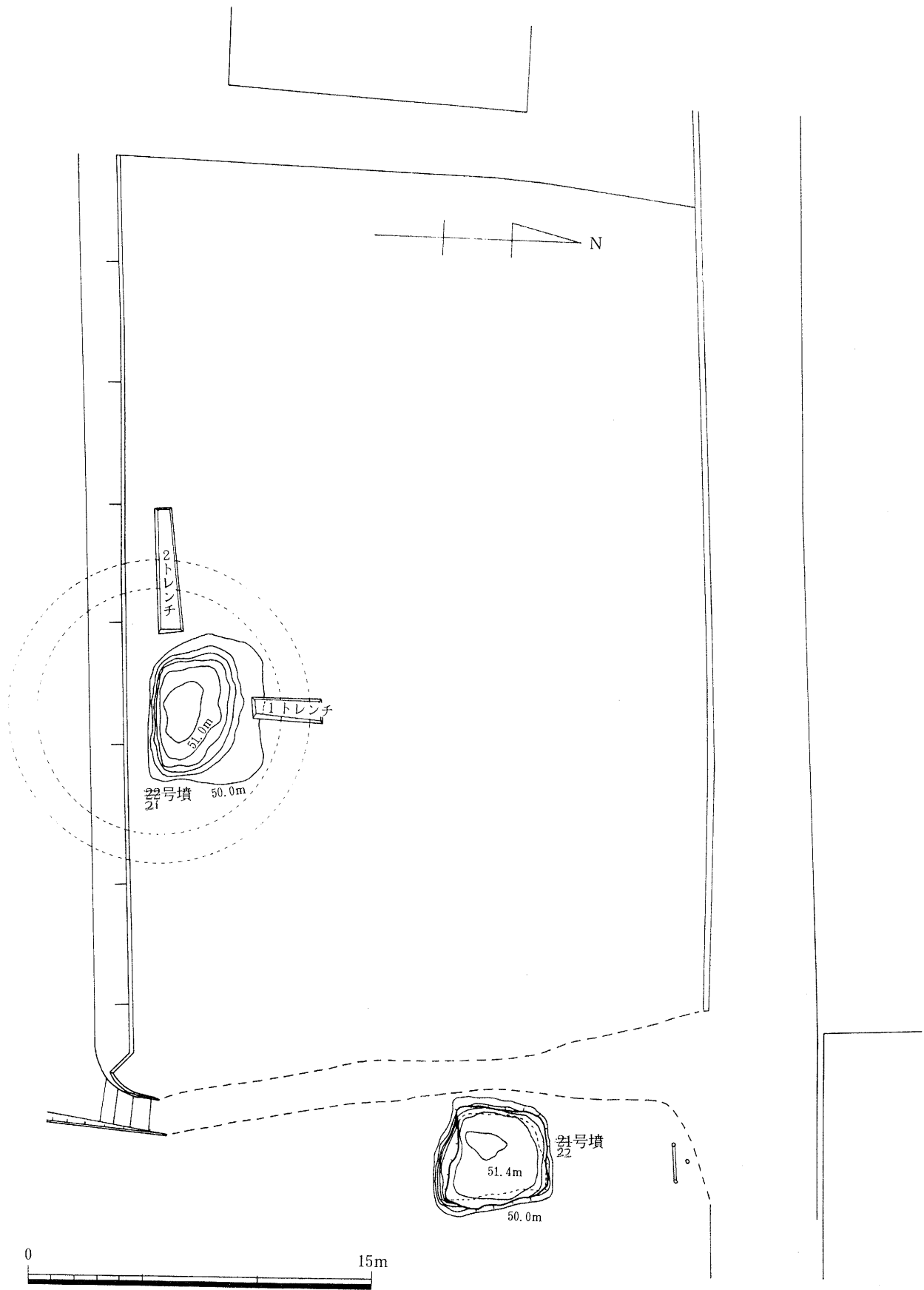
確認調査は、平成6年6月29日～同月30日の2日間にわたり実施した。

(3) 調査の概要

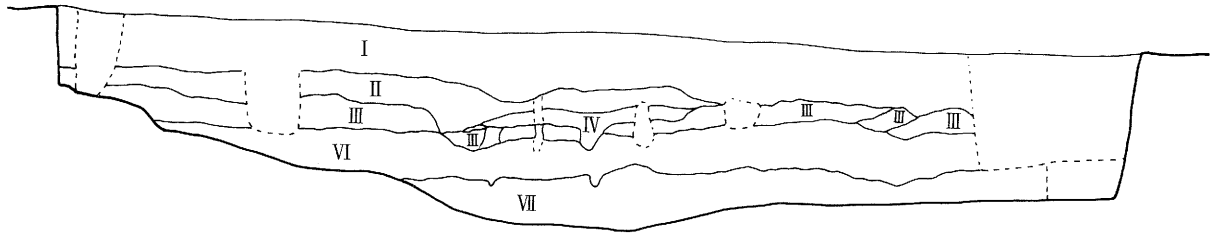
確認調査は、駐車場予定地にかかる21号墳の墳丘規模確認のトレンチ調査と、同墳及び22号墳の墳丘測量を実施した。

21号墳は、昭和60年の調査時に墳丘南側の確認調査が実施されているが、約1.5m以上も削平を受けているため、墳丘規模等は確認されていない。そこで、墳丘の北側（1トレンチ）と西側（2トレンチ）にそれぞれトレンチをいれ、墳丘規模の確認を試みた。その結果、1トレンチでは、数年前に実施された土取り工事により、標柱ぎりぎりまで客土で覆われており全く判別できなかった。2トレンチは北側部分がやはり客土で覆われ破壊を受けていたものの、南側は保育園との段差を保護していた関係でわずかに残存しているのが確認された。土層観察では、アカホヤ層がはっきりと確認され、それを掘り込むように周溝とみられる落ち込みが認められた。また、墳丘表面から主体部とみられる阿蘇熔結凝灰岩製の組合せ式箱式石棺の一部が散乱しているのが確認され、須恵器片が表採された。

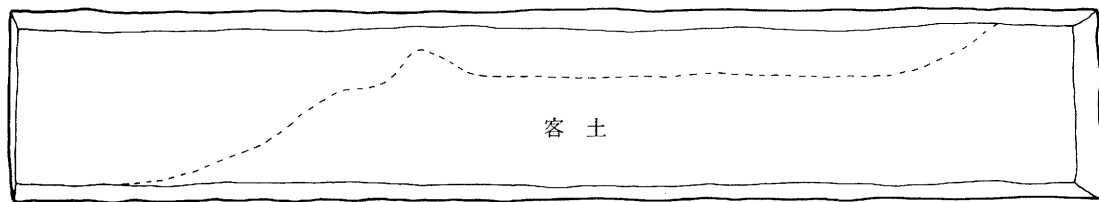
22号墳は、以前に実施された畑地造成により標柱までぎりぎりに削平を受け方墳状になっていた。墳丘上には、主体部の組合せ式石棺の蓋石（縄掛突起をもつ）の一部が露出していた。この古墳は、駐車場予定地内であるが現状のまま使用される計画であることから、墳丘測量のみとした。その結果、現存墳丘は直径約5m程であるが墳丘の残存状況や隣接する21号墳からみて約10数mの規模を有していたと推定された。



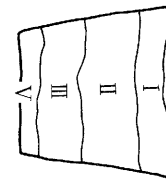
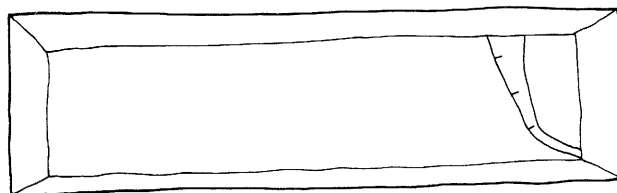
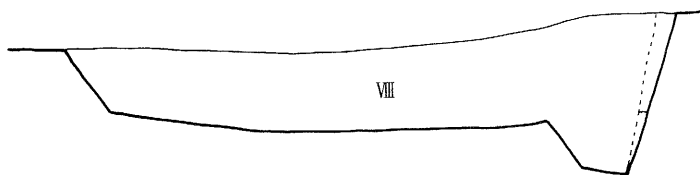
第8図 赤木遺跡第2地点遺構配置図



- | | |
|---|------------------------------------|
| I層 表土
耕作土 | IV層 暗褐色粘質土
粒子が細かく柔らかい |
| II層 黒褐色土
サラサラしており、1~3ミリのアカホヤ粒を混じる
耕作土 | VI層 暗褐色粘質土
IV層よりやや硬くしまる。縄文早期包含層 |
| III層 アカホヤ | V層 茶褐色粘質土
細粒で粘質がある |

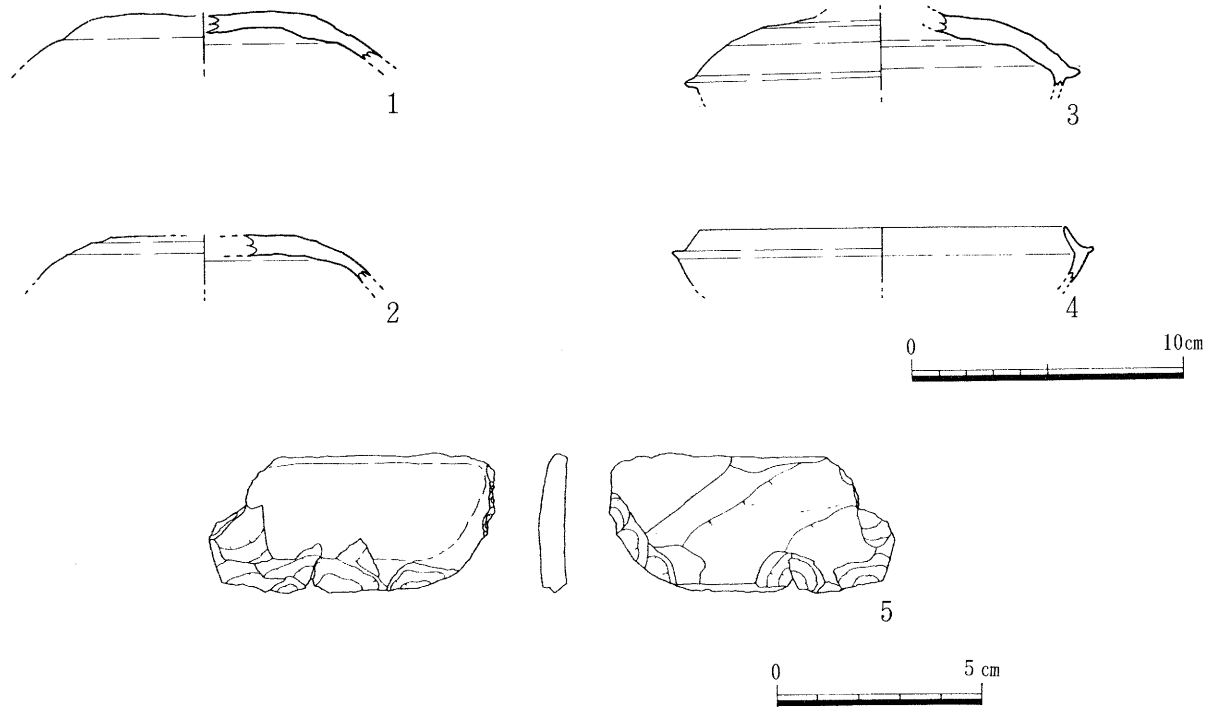


第9図 赤木遺跡第2地点第2トレンチ土層断面図



- | |
|--|
| I層 表土
耕作土 |
| II層 黒褐色土
サラサラしており、1~3ミリのアカホヤ粒を混じる |
| III層 アカホヤ |
| V層 暗黒褐色土
若干柔らかい。いわゆるアカホヤ層の直下にみられる土層 |
| VIII層 客土 |

第10図 赤木遺跡第2地点第1トレンチ土層断面図



第11図 赤木遺跡第2地点出土遺物実測図

今回の調査では、21号墳について東側のトレンチ調査が指定地番との関係で調査ができなかったものの、現存の墳丘から想定した規模は、直径約10.8m、周溝の外側の直径は約13.3mになることが判った。これにより当地区内に所在する19号墳（墳丘直径約17m）とともに21号墳に周溝が存在することが明らかになり、他の古墳についてもその可能性が推定され、墳丘の範囲確認調査と指定地域の拡大を含めた検討が望まれる。

(4) 出土遺物

1・2・5は21号墳、3・4は22号墳の墳丘上で表採されたものである。1～4は須恵器である。1は坏蓋である。天井部は平坦にヘラケズリが施されている。内面はヘラケズリ後なで消されている。2は坏蓋である。欠落部分が多いため詳細は不明であるが、外面天井部分は平坦面を作出するためヘラケズリが施されている。その他はヘラケズリ後ナデている。3は、坏蓋である。天井部は欠落しているがつまみが付くものとみられる。外面天井部はヘラケズリがみられ口縁部はナデている。内面はヘラケズリ後ナデ消している。表面はやや灰釉がかかっている。4は坏身である。受け部のみであるが、復元口径は13.5cmを測る。立ち上がり端部は細く仕上げている。5は頁岩製の磨製石包丁である。大部分が剥落しているが長方形でやや湾曲した刃部をもつ。

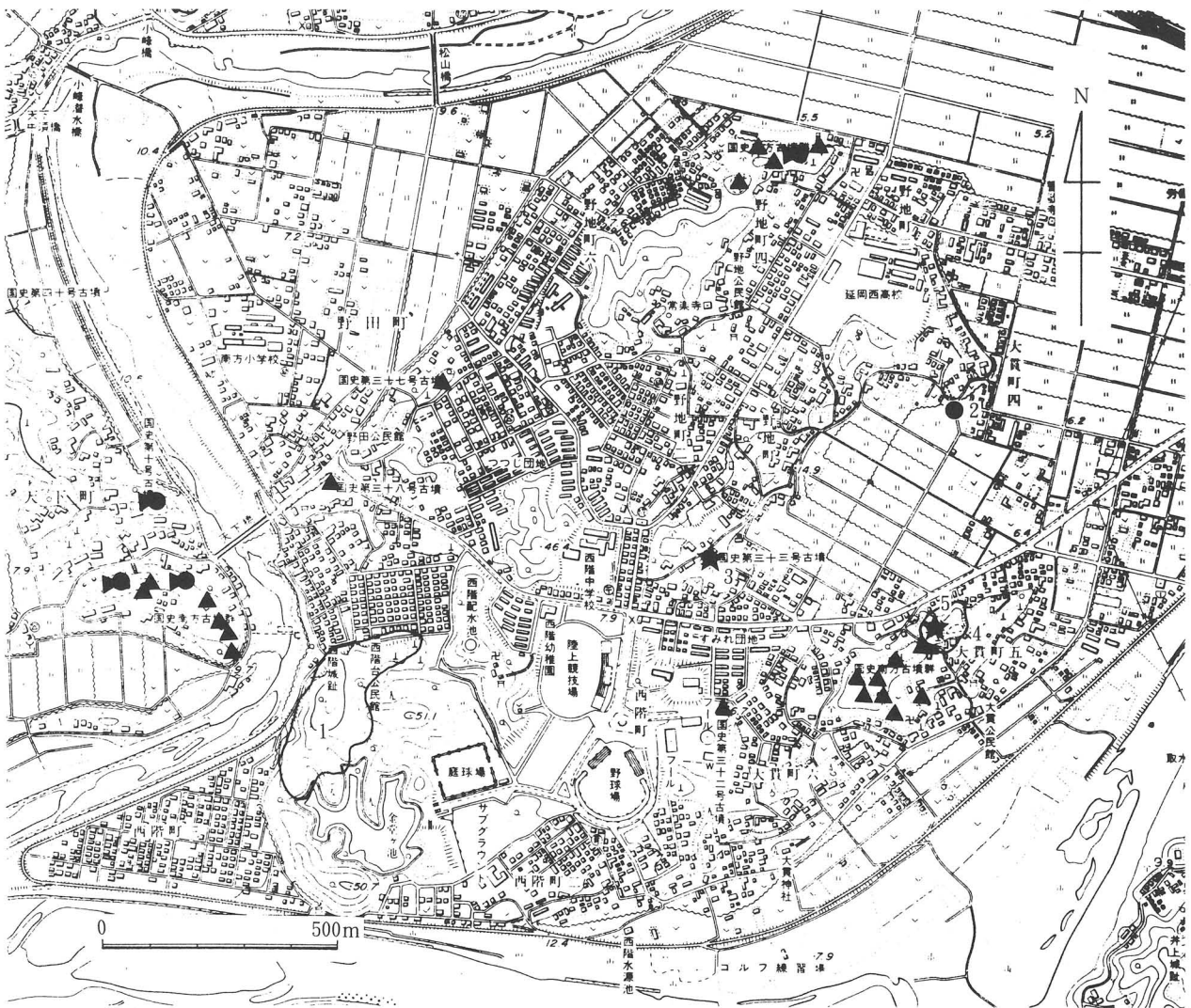
(山 田)

3. 上無田遺跡

(1) 位置と環境

上無田遺跡は、延岡市野地町1丁目2507番地外（字上無田）に所在する。

延岡市の西部に位置する南方地区には、五ヶ瀬川と大瀬川との分流点付近にある山（標高約60m）から北東方向に派生する二列の丘陵があり、その南側の丘陵が更に舌状に広がりながら低湿地へとつながる丘陵上に位置する。調査予定地から北東約600mには通称ガンガン石と呼ばれる横穴式石室の一部とみられる大石がみられる。また、付近には国史跡南方古墳群第33号墳（以下33号墳）が所在している。33号墳は、東方から南東方向を望む丘陵上（標高約18m）に立地し、眼下に水田地帯を見下ろすことができ、水田との比高差は約13mである。現在は、古墳の周囲は土柱状に削り取られ滅失している。これまでの経緯については、以下のとおりである。古墳の周

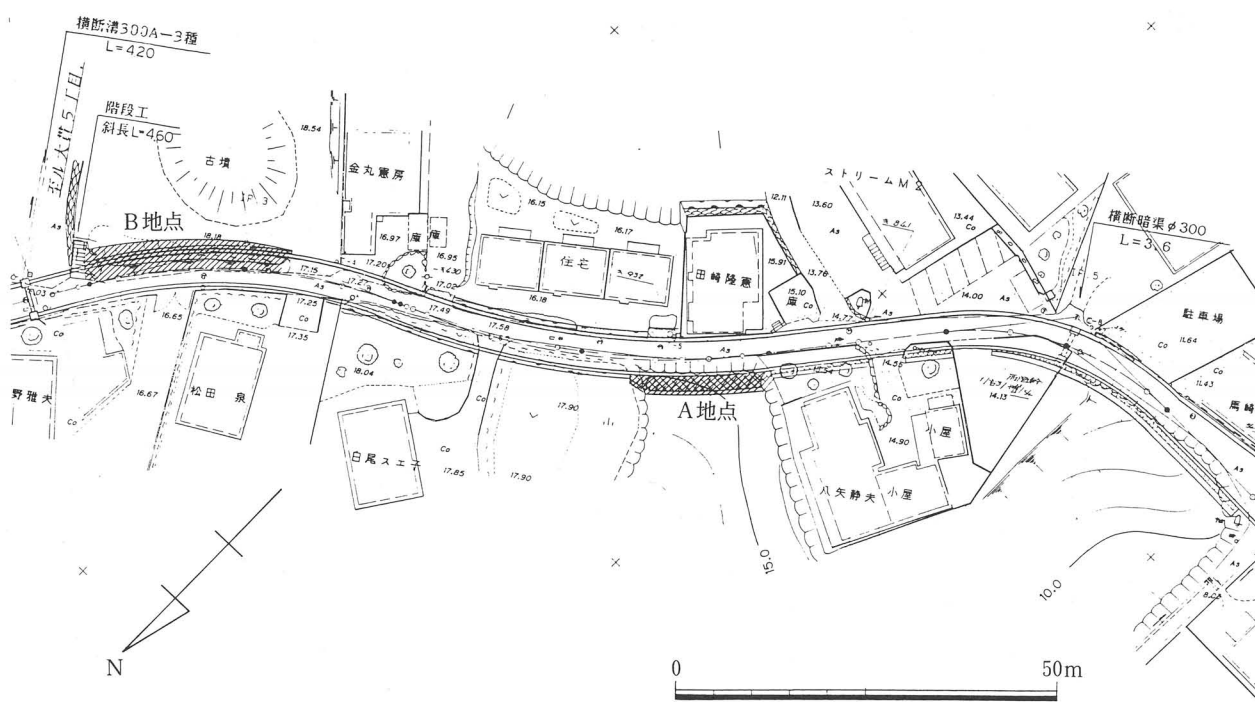


国史跡 南方古墳群▲ 1. 西階城趾 3. 上無田遺跡 5. 浄土寺山古墳

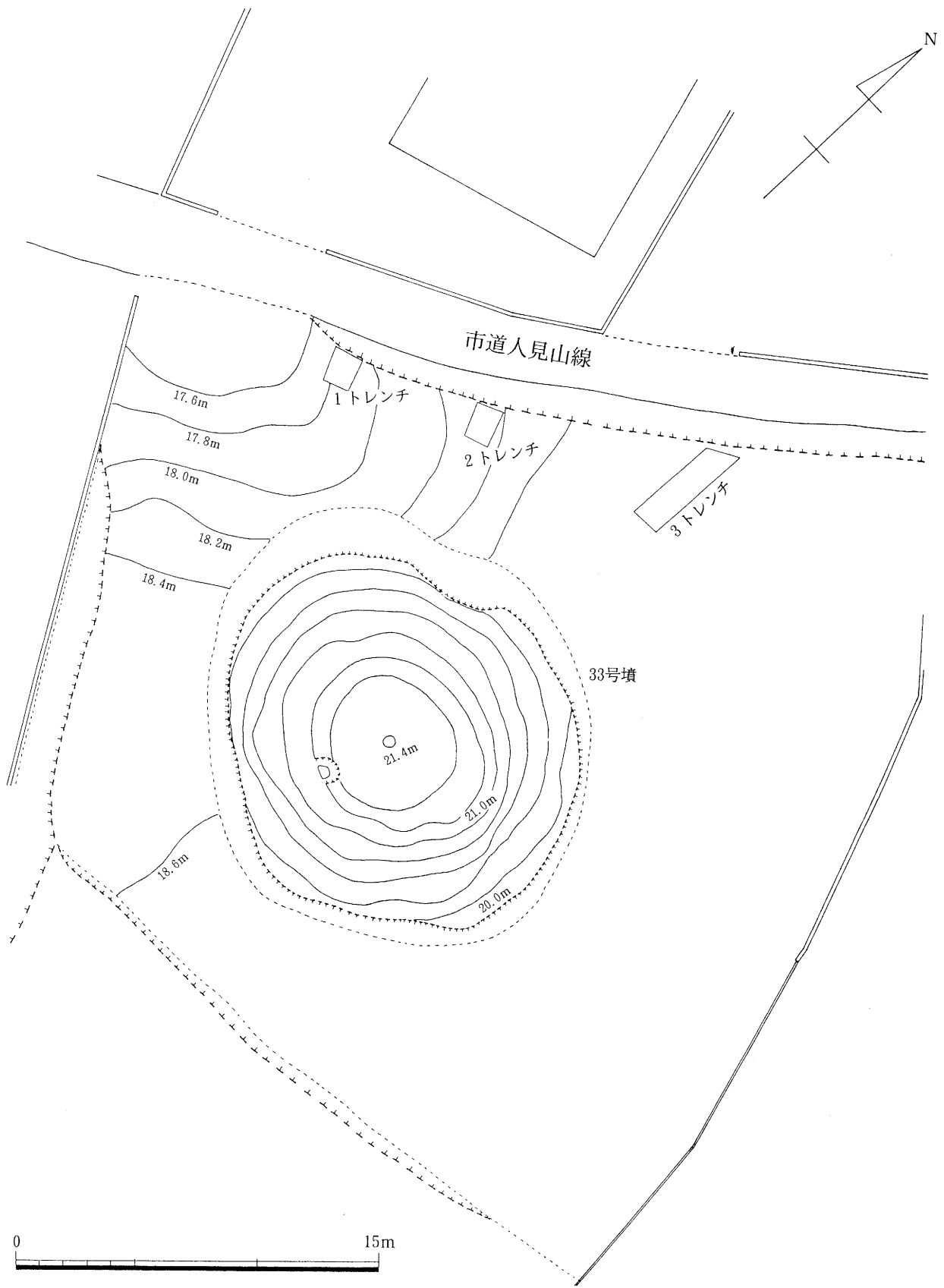
2. ガンガン石 4. 大貫貝塚

第12図 野地・大貫地区周辺遺跡分布図

圃は昭和51年1月6日、宗教団体延岡支部代表者から市教委に対して33号墳隣接地（延岡市野地町1丁目2507番地内）に道場建設の打診を受けた。申し出内容は古墳から1mの余裕をおいて山林の一角に建設したい旨であったが以下の指導を行った。①工事設計図が出来次第、市教委に提出すること。②工事着工前に着工予定日を連絡すること。③工事中、不審な点があれば速やかに届け出ること。以上については、同年1月17日付けで「国指定古墳隣接地現状変更事前報告書」として市教委から県教育長あてに報告された。この間、3回の巡視を行っている。同年5月13日の巡視中には、無届けで33号墳周辺の山林伐採が終了しているのを確認し、同月20日に市民から工事着手との通報を受け、直ちに現場にて確認した。現状は、33号墳の周囲が高さ約1.4mにわたり円柱状に削り取られており、当初の申し出内容とは全く異なっていたため、施工依頼主に所定の手続きをとるよう説諭するとともに、状況を県文化課に報告した。県文化課より担当主事が現地調査し、施工依頼主及び施工者に対し以下の指導を行った。①現状変更許可申請の手続きを取ること。②周辺部分については約1ヵ月間（県教委による結論を出すまで）工事を中止すること。③土留め工事については翌日までに、工事中止か継続かについて連絡するまで工事を中止すること。以上がなされた。翌日には③については継続工事可能との連絡を受け、同月25日には文化庁長官あてに土地所有者から「史跡現状変更許可申請書」が提出され、同月31日付けで市教育長から県教育長あてに副申書を添付して「史跡現状変更申請」として通知するに至った。同年6月14日には施工依頼者、施工業者、市社会教育課と今後の対応について協議を行い、下記の同意がなされた。①33号墳周囲にある標さく内に侵入することなく、土留め工事を実施すること。②敷地内への車両の侵入については幅2.5mを限度に認める。③33号墳上にある有線スピーカー施設は他の場所に移設すること。④その他、保存上必要な措置については、市教育委員会の指示に



第13図 上無田遺跡調査区配置図



第14図 上無田遺跡33号墳墳丘測量図

従うこと。以上がなされた。また、これらの同意事項をもとに同月21日付けで「国指定33号墳隣接地開発に関する覚書」を所有者及び開発者と締結し今日に至っている。

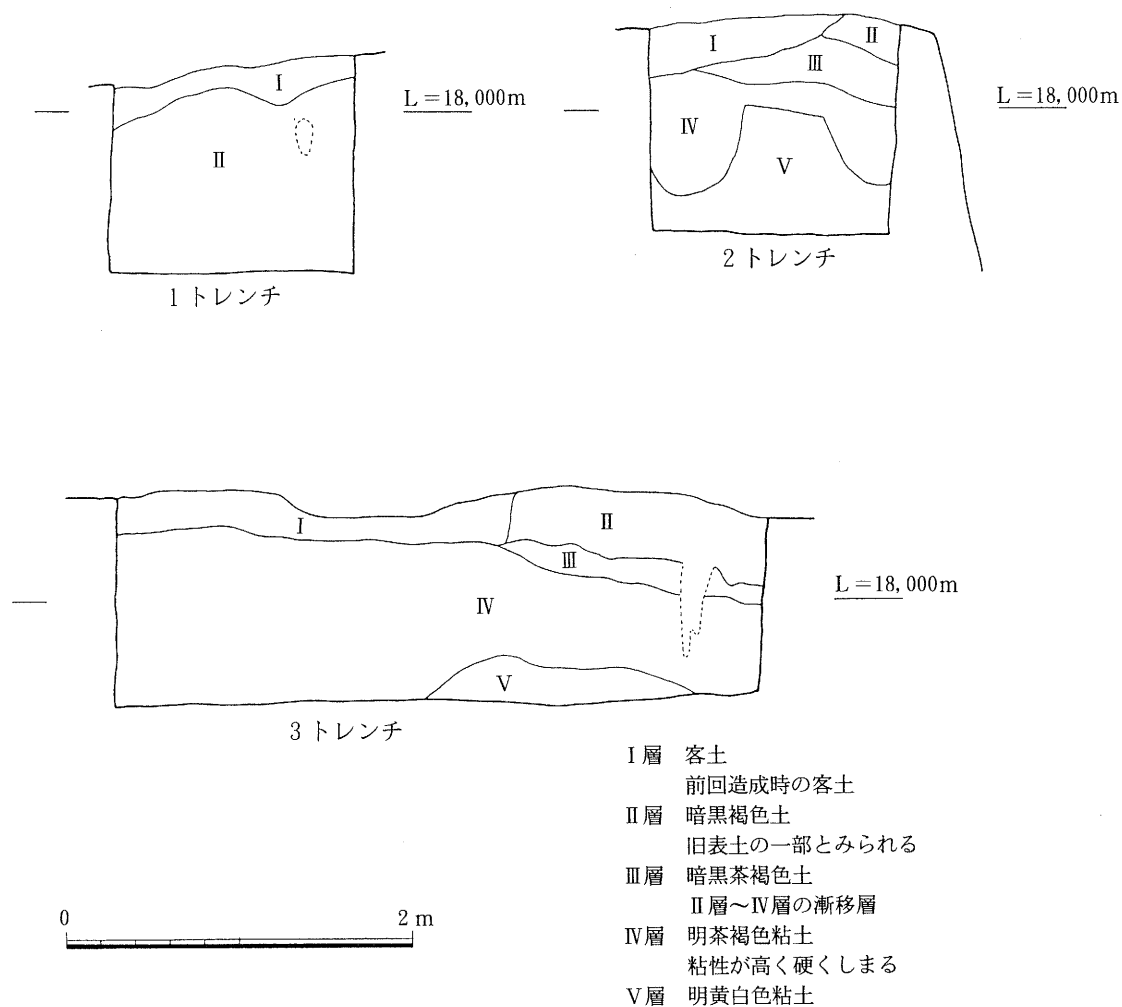
(2) 調査に至る経緯

平成5年9月、市教育委員会に対して市土木課から市道人見山線改良計画について照会があった。予定地付近には33号墳が所在するため、路線の線形について現地協議を実施した。その結果、33号墳周辺付近については現状変更について再考を求めたが、道路の向かいにある民家との関係や経費等との兼ね合いがあり困難な状況となった。そこで、やむを得ず隣接地の現状変更は極力避けることで合意し、現状変更を伴う区域については次年度に確認調査を実施することで合意した。その後、平成6年4月19日付けで市土木課から文化財保護法第57条の3第1項の通知があり、これを受けて、同年8月18日から同年9月2日にかけて確認調査を実施することになった。

(3) 調査の概要

確認調査は、道路拡幅に伴う区域の中から埋蔵文化財包蔵の可能性が高い丘陵尾根部分をA地点、33号墳付近をB地点として選び、それぞれトレンチ法で実施した。

A地点は、標高約15m付近にある小尾根に立地する。隣接地は北方を除いて大幅に削平を受けているが、この付近のみ旧地形が残っていた。従ってこの地点にトレンチを入れることとした。



第15図 上無田遺跡B地点トレンチ土層断面図

その結果、表土直下は、遺物包含層は全く確認されず、阿蘇-4堆積物とみられる非常に硬い土層が検出され、遺構、遺物等は全く検出されなかった。

B地点は、33号墳の北側の部分にあたる標高約18~19m付近に立地し、33号墳に直交するように西側からトレンチを3ヵ所設定した。調査の結果、前項で述べたように以前の造成時に上部の土壌は削平を受けていたため、遺構、遺物は全く検出されなかった。また、33号墳の墳丘測量を実施したところ、現存直径が約13m、高さ約1mになることが判った。

今回の調査では、遺構、遺物等は確認されなかったが、33号墳の墳丘測量により規模が明らかになったことは、今後の南方古墳群の変遷等を研究する上で資料を提供できたといえる。また、33号墳の南側は旧地形が残っていることから埋蔵文化財包蔵地の可能性があり、今後の開発計画等には注意を要すると思われる。

(山 田)

4. 平野遺跡

(1) 位置と環境

同遺跡は野地町2丁目4040-1外（字平野）地内に所在する。

西階城址から北東へ舌状に派生する丘陵は、団地や道路等の開発により寸断されている。遺跡はこの丘陵の現存する最端部に位置し、西階城址から約600m北東である。遺跡の所在する丘陵部は周辺の宅地化や学校建設によってかなりの削平を受けていた。

西階城は永享元年（1429）土持全宣により築城され、松尾城に移るまでの約20年間の短期間の居城であった。別名宝坂城ともいわれる。当時、土持氏と西の三田井氏、南の伊東氏は対立関係にあった。西階城は西と南を川によって遮られており、自然の要害として絶好の地点に立地している。

(2) 調査に至る経緯

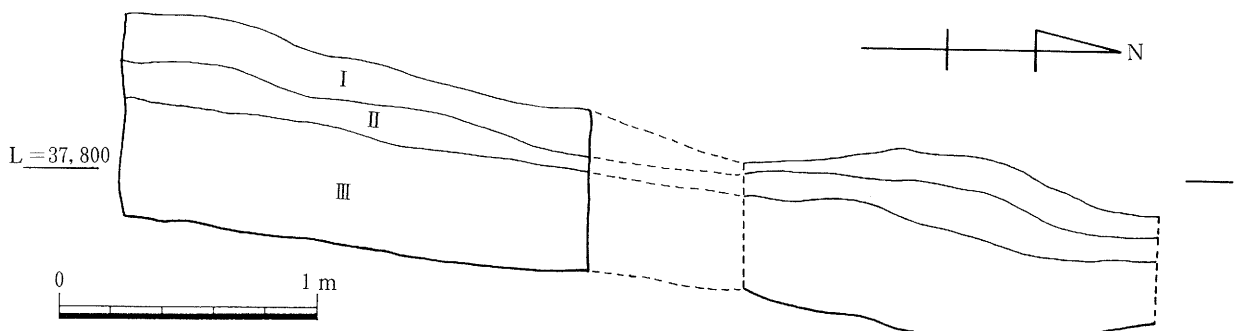
調査地に隣接する西階中学校の運動場が手狭なため、市教育委員会総務課が平成6年度事業として同地の買収、造成を計画した。西階城址に付随する遺構等の存在が考えられるため協議を行い造成前に確認調査を行うこととした。調査は平成6年10月5日～11日までの4日間で実施した。

(3) 調査の概要

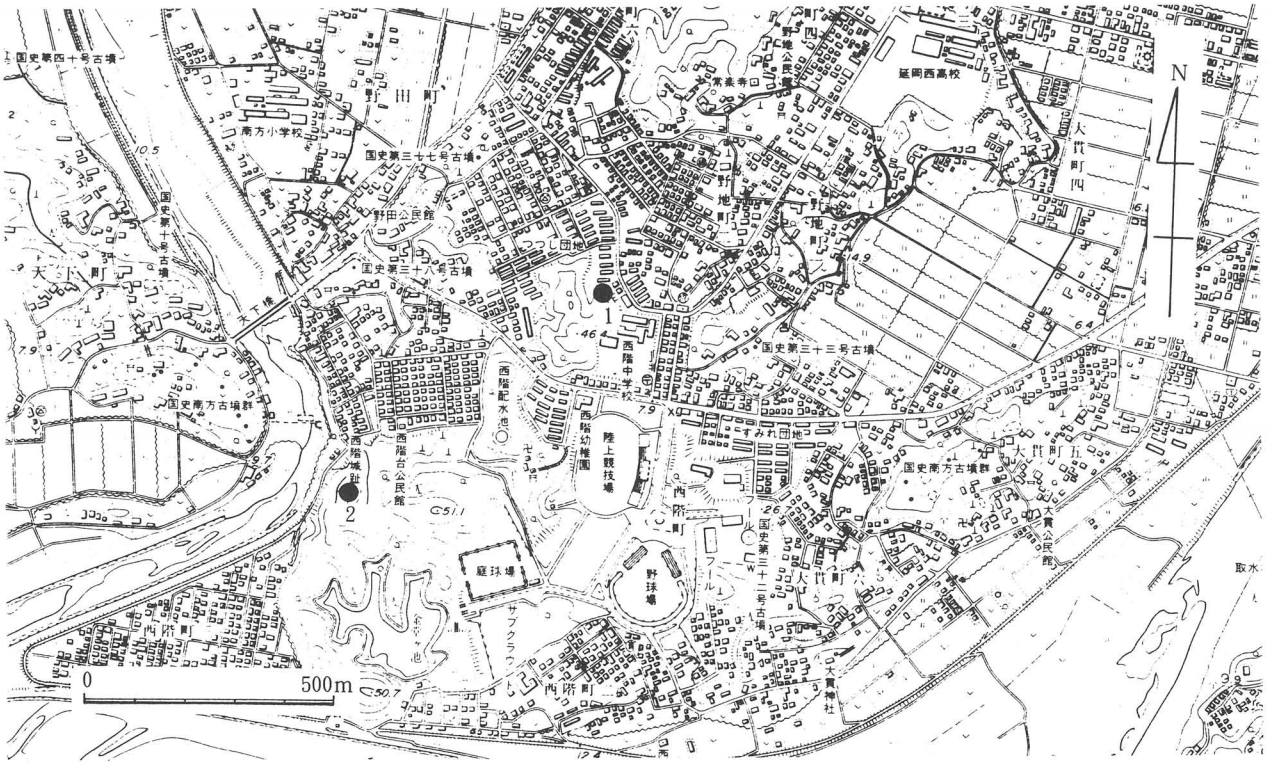
現存する丘陵部は、標高45mの丘陵を中心に、ほぼ真北に向かい伸びる2本の尾根からなる。調査地は、その東側の尾根である。

調査はトレンチ法を用いて実施した。尾根筋にそって7本、中腹部に3本、東西の尾根に挟まれた谷部に1本、計11ヵ所にトレンチを設定し、土層断面の観察を行った。当遺跡の基本層序は次のとおりである。第Ⅰ層腐葉土（シダ類の根が多い）、第Ⅱ層淡黄褐色土（粒子が細かい）、第Ⅲ層乳白色粘質岩土層である。遺構・遺物等は出土していない。

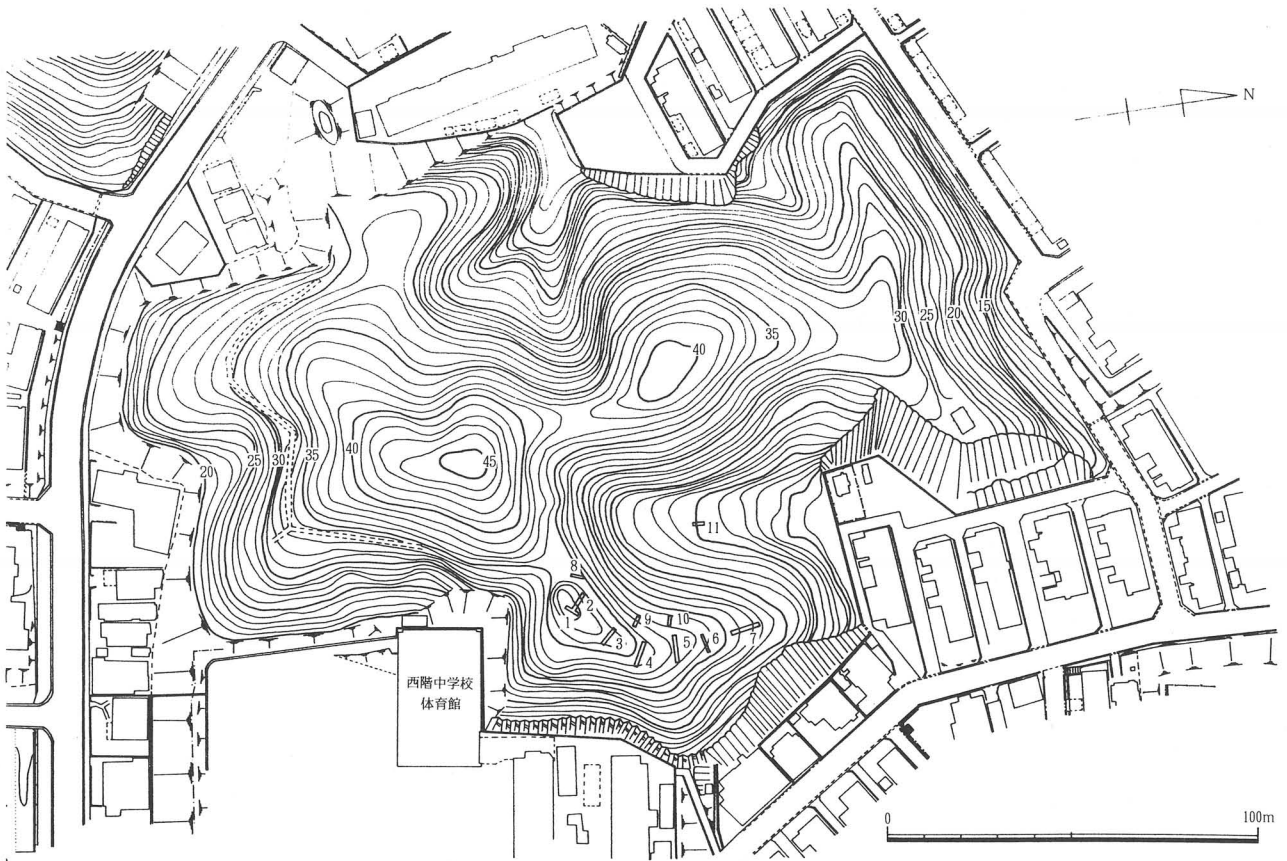
今回の調査では遺構・遺物は確認できなかった。しかし、今回の調査では対象にならなかった西側尾根や丘陵の頂部等は、遺構等の存在する可能性が考えられ、今後の開発等では十分な協議が必要であろう。 (尾方)



第16図 平野遺跡第1 トレンチ土層断面図



1. 平野遺跡 2. 西階城址
第17図 平野遺跡位置図



第18図 平野遺跡調査区配置図

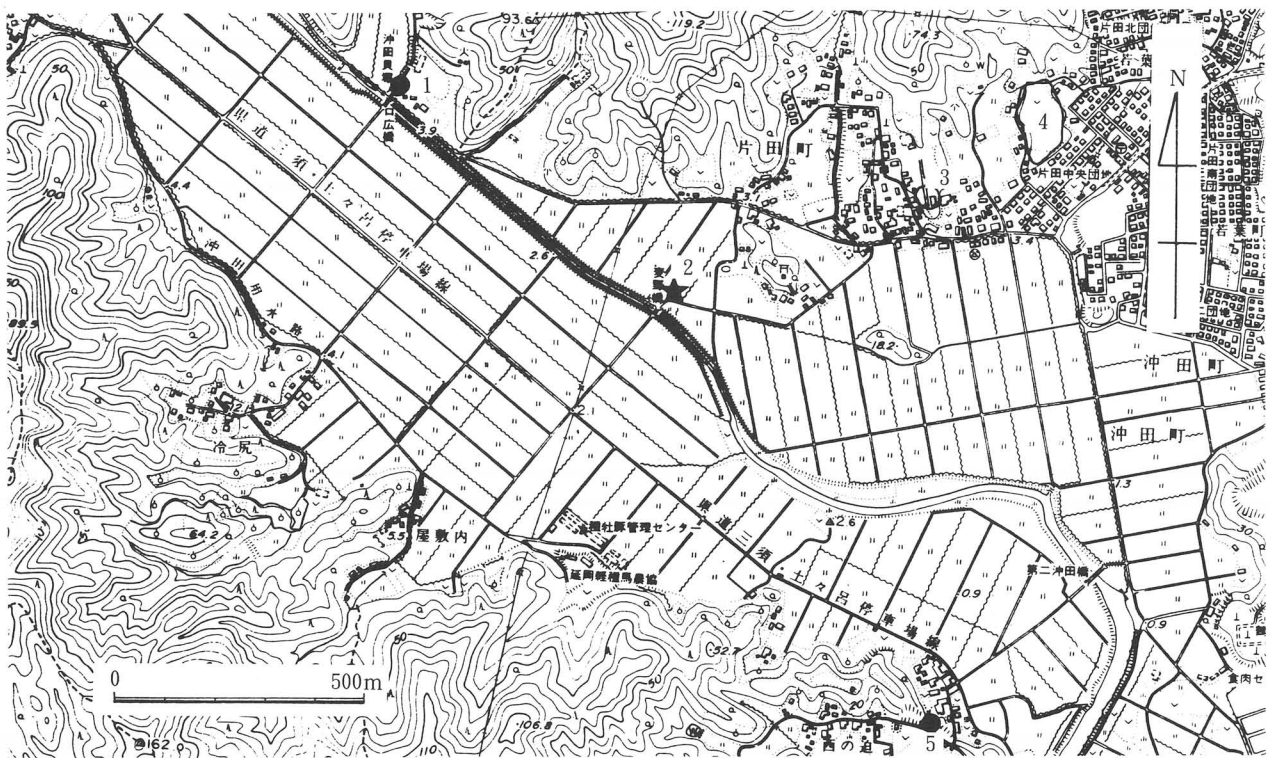
5. 上麦野遺跡

(1) 位置と環境

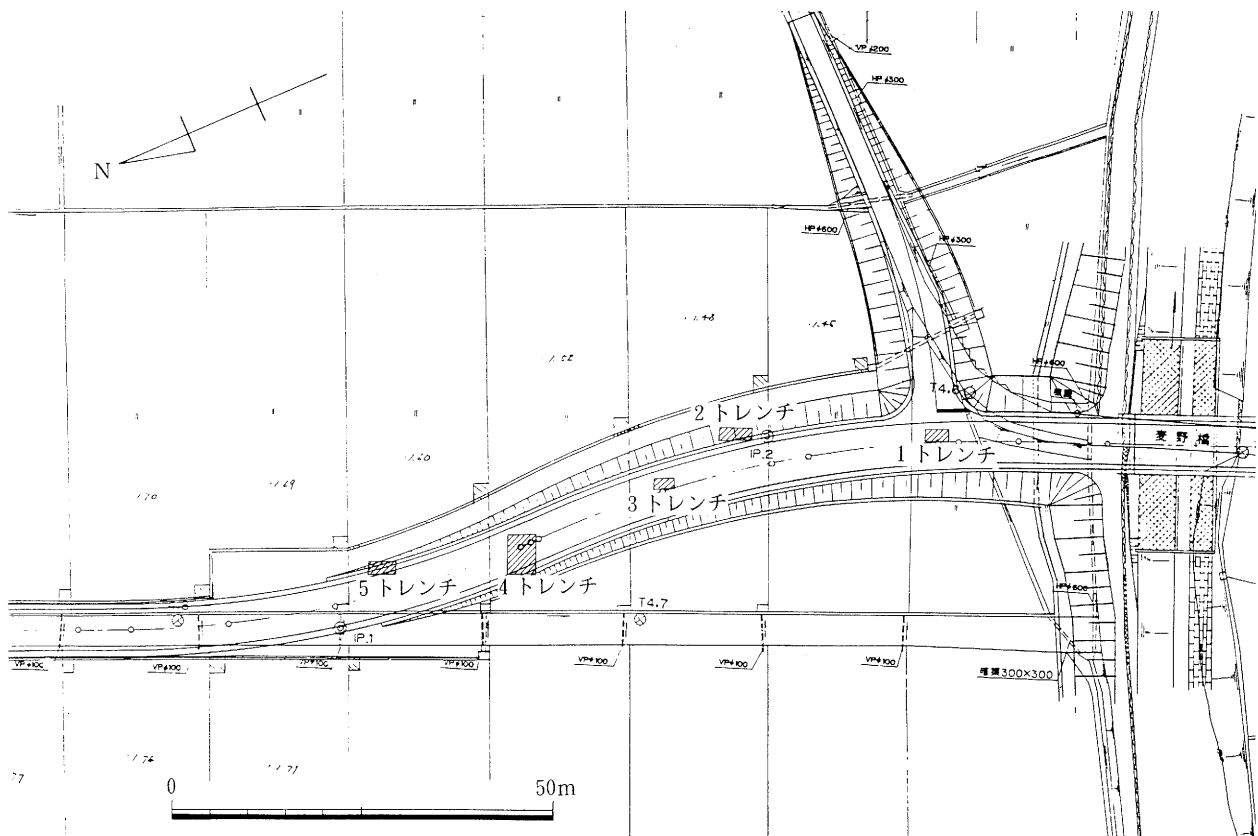
上麦野遺跡は、延岡市片田町3730番地外（字上麦野）に所在する。延岡市街地の中南部の愛宕山南側には沖田川の沖積作用による標高1～7mの沖田平野が広がっている。この平野は、南北を山に挟まれ河口付近は小山があるため、いわゆる埋没谷が形成された後にできたもので、最大幅約800m、長さ約4kmを測る。当遺跡は、この平野のほぼ中央付近にある標高約2mの沖田川左岸に立地する。周辺の丘陵上には、東に約700mには片田遺跡（先土器）、北西に約700mには市史跡の沖田貝塚（縄文晩期）など先土器時代から古墳時代にかけての遺跡が点在している。また、周辺一帯は大正年間に基盤整備が行われているが、近年は上流の沖田ダム建設に伴う河川改修や道路整備が進められ、それらに関連して埋蔵文化財発掘調査が実施されている。

(2) 調査に至る経緯

平成5年9月、市土木課から市教育委員会に対して市道麦野橋線の改良計画にかかる文化財の有無について照会があった。早速、現地調査を行ったところ、沖田川に隣接する水田地帯で遺物等は表採されなかったが、周辺には先土器時代～古墳時代の遺跡が分布しており、水田遺構等の存在の可能性があることから、市土木課と工事計画時期等について協議を行った。その結果、事業開始は平成6年度であるため、用地買収後に文化財保護法の手続きを行い、市教育委員会にお



第19図 片田・小野地区周辺遺跡分布図



第20図 上栗野遺跡調査区配置図

いて確認調査を実施し、その結果をみて本調査の必要性について判断するとのことで合意した。

確認調査は、平成6年4月19日に市土木課から文化財保護法第57条の3第1項の通知を受けて、同年11月1日から同月4日にかけて実施した。

(3) 調査の概要

確認調査は、各水田に重機によるトレンチを入れて土層確認を行う方法をとった。

1トレンチは、沖田川に隣接する水田に設定した。その結果、水田層直下は2m以上にわたり岩土の客土で覆われており、基盤整備前の旧沖田川の一部であることが判った。2・3・5トレンチは、水田層直下は客土があり、その下層は暗黒灰褐色粘質土がみられ、水田面から約1.5～2mからカキなどの貝殻が検出された。4トレンチからは、現水田面の約40cm下から幅約1.2m、深さ約0.2mの大正以前の水路状遺構が検出された。

今回の調査では、基盤整備前の水路状遺構が検出されたものの、時期の問題があり本調査は必要ないとみられるが、今後進められる周辺整備では更に古い時代の遺構が予想され、継続的な調査が望まれる。

(山 田)

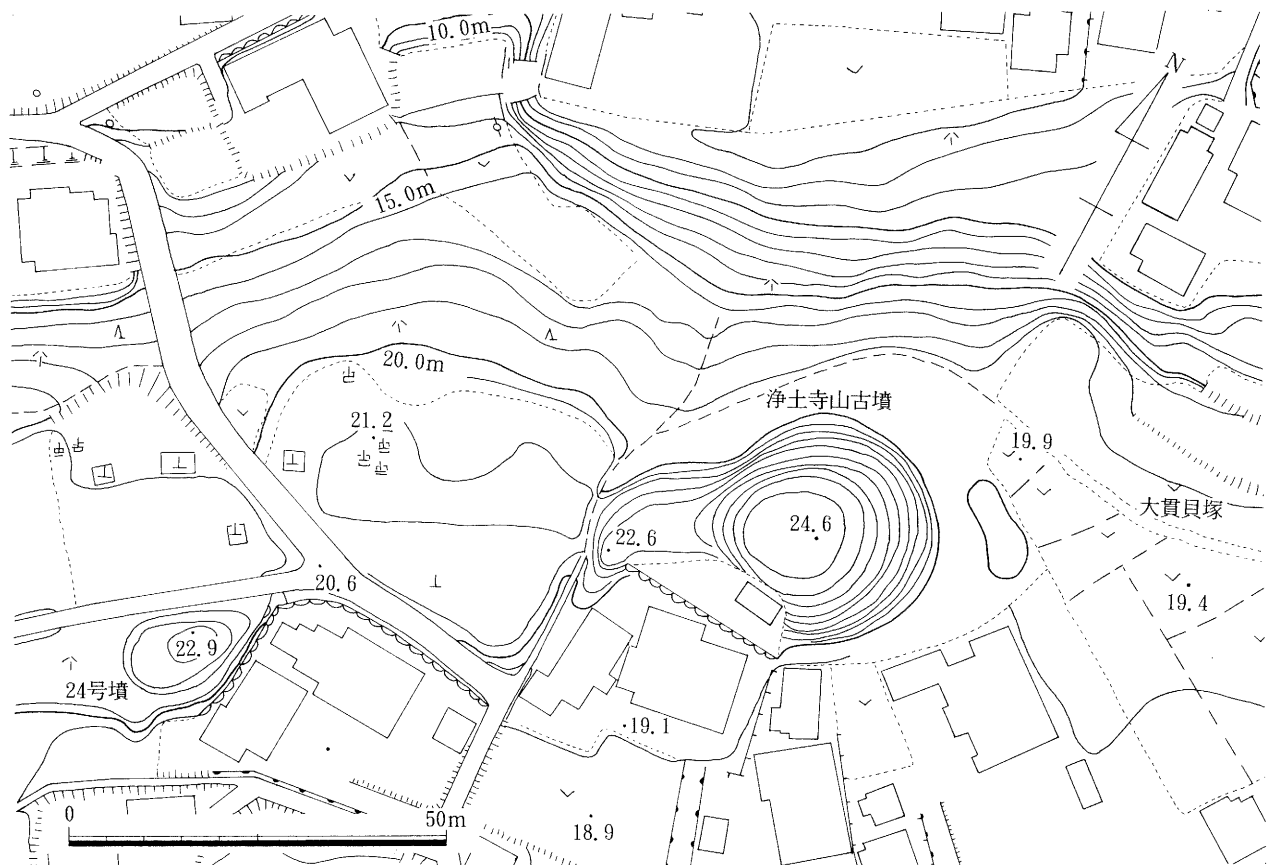
6. 浄土寺山古墳

(1) 位置と環境

浄土寺山古墳は、延岡市大貫町5丁目1529-1外（字浄土寺）に所在し、延岡市街地から西に位置する大貫丘陵上にある標高約20mの地点に立地する。この丘陵は南西から北東に延びるなだらかな丘陵で、国史跡南方古墳群の大貫支群（前方後円墳1基、円墳8基）が点在している。中でも、浄土寺山古墳（第39号墳）は同支群唯一の前方後円墳で昭和4年5月に当時東京帝国大学講師鳥居龍蔵氏によって発掘調査が実施されている。報告によると「帆立て貝式前方後円墳で全長34.5m、前方部長13.5m、前方部幅10m、高さ2m、後円部径21m、高さ3.9mを測る。主体部は後円部から粘土郭が確認され、おびただしい数の鉄製品（鉄鏃、鉄刀、鉄剣、蛇行剣、甲冑）、竹簡などが出土している。」とされ、5世紀前葉に築造されたとみられる延岡平野における初期の首長墓として重要な古墳である。また、浄土寺山古墳付近一帯は大貫貝塚（縄文時代早期）としても知られており、西南西約50mには県北最大の横穴式石室を有する24号墳が所在し、更にその西側にも円墳が点在している。

(2) 調査に至る経緯

浄土寺山古墳は、昭和4年5月の鳥居龍蔵氏の調査後、昭和18年に本墳を含む南方地区の42基が国の史跡として指定を受けている。その後、戦時中には後円部に防空壕が掘られ、その影響で墳丘が一部陥没している。終戦後は、畑地及びタケノコ山として利用され、昭和49年頃には前方



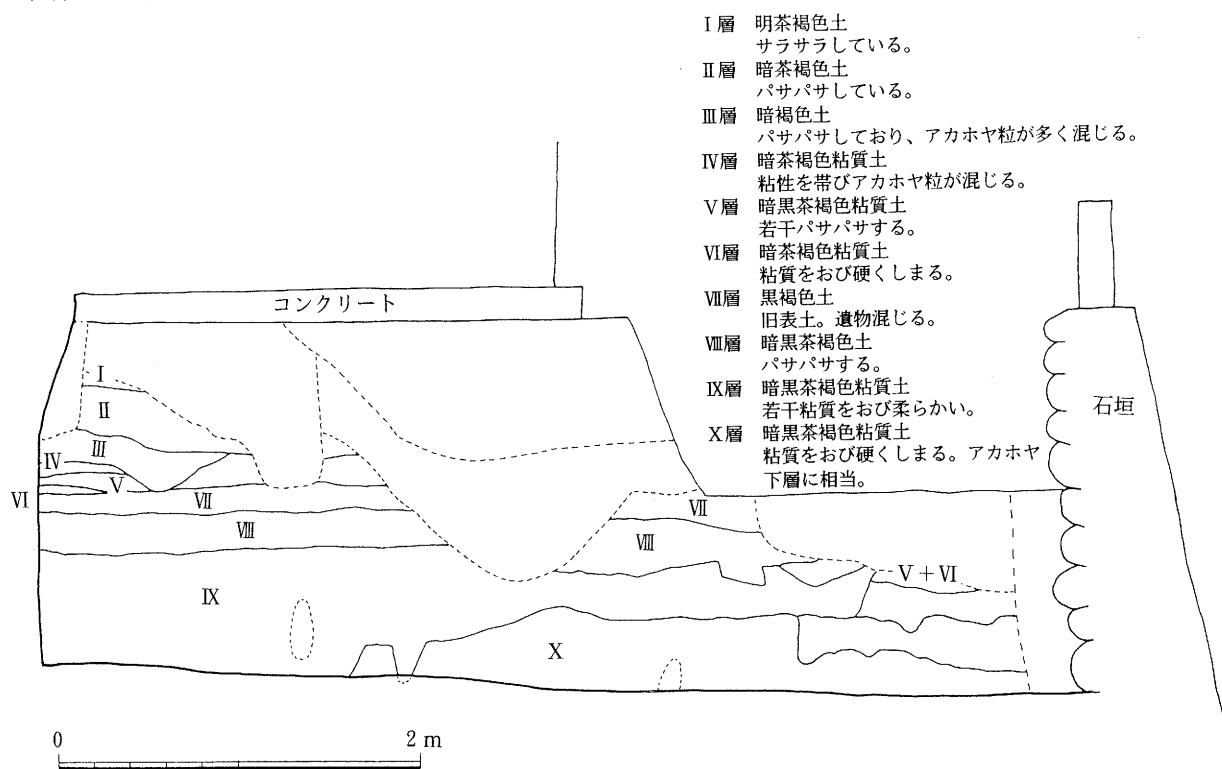
第21図 浄土寺山古墳周辺測量図（昭和52年度実測）



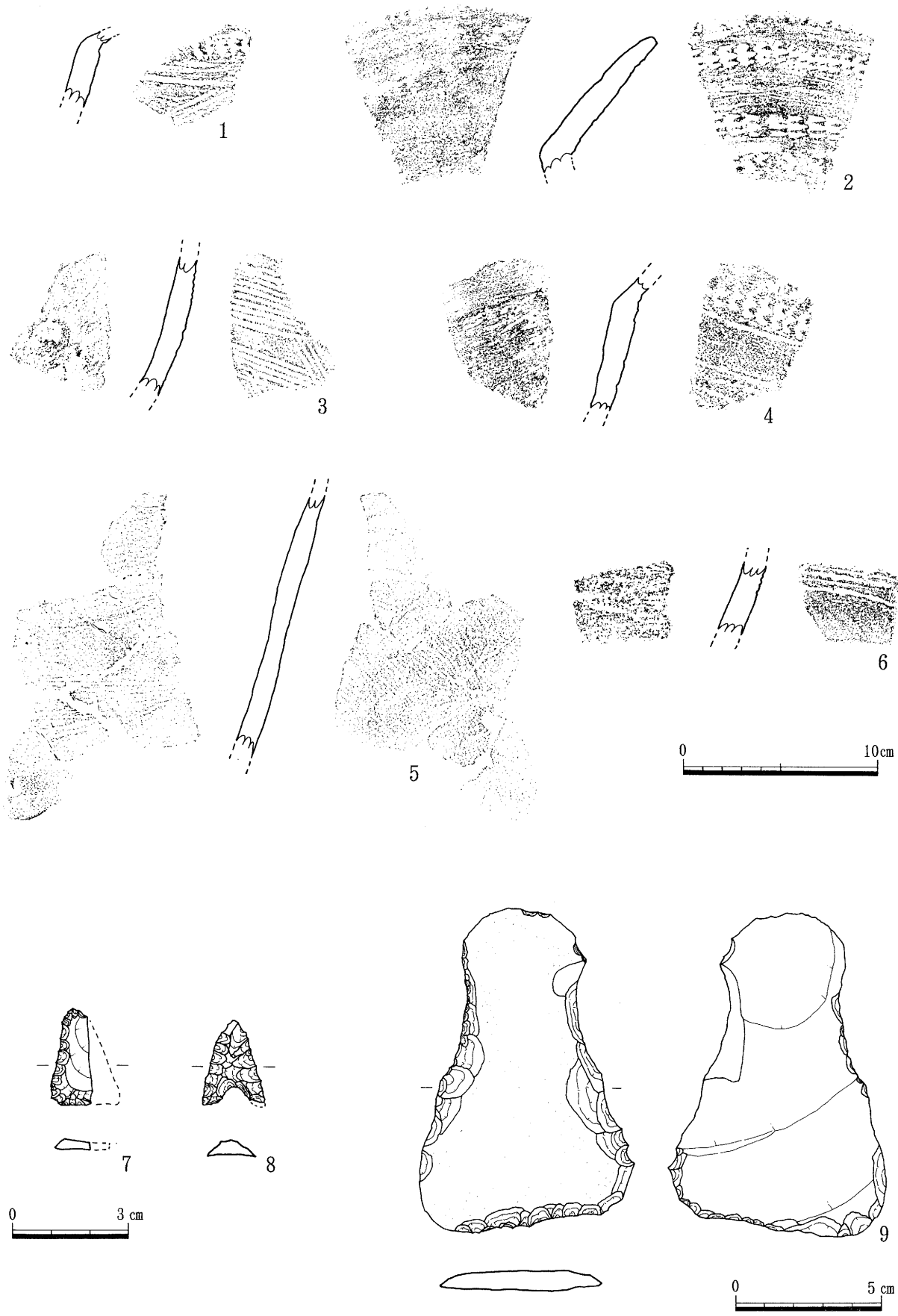
第22図 浄土寺山古墳墳丘測量図

部の南側が豚舎建設のため削平されている。平成元年には、同古墳にかかる都市計画道路3. 4. 7 愛宕松山通線の計画路線があったが、文化庁、県文化課、市教育委員会らと協議で、現状変更は不可能との結論で、路線変更を行った経緯がある。

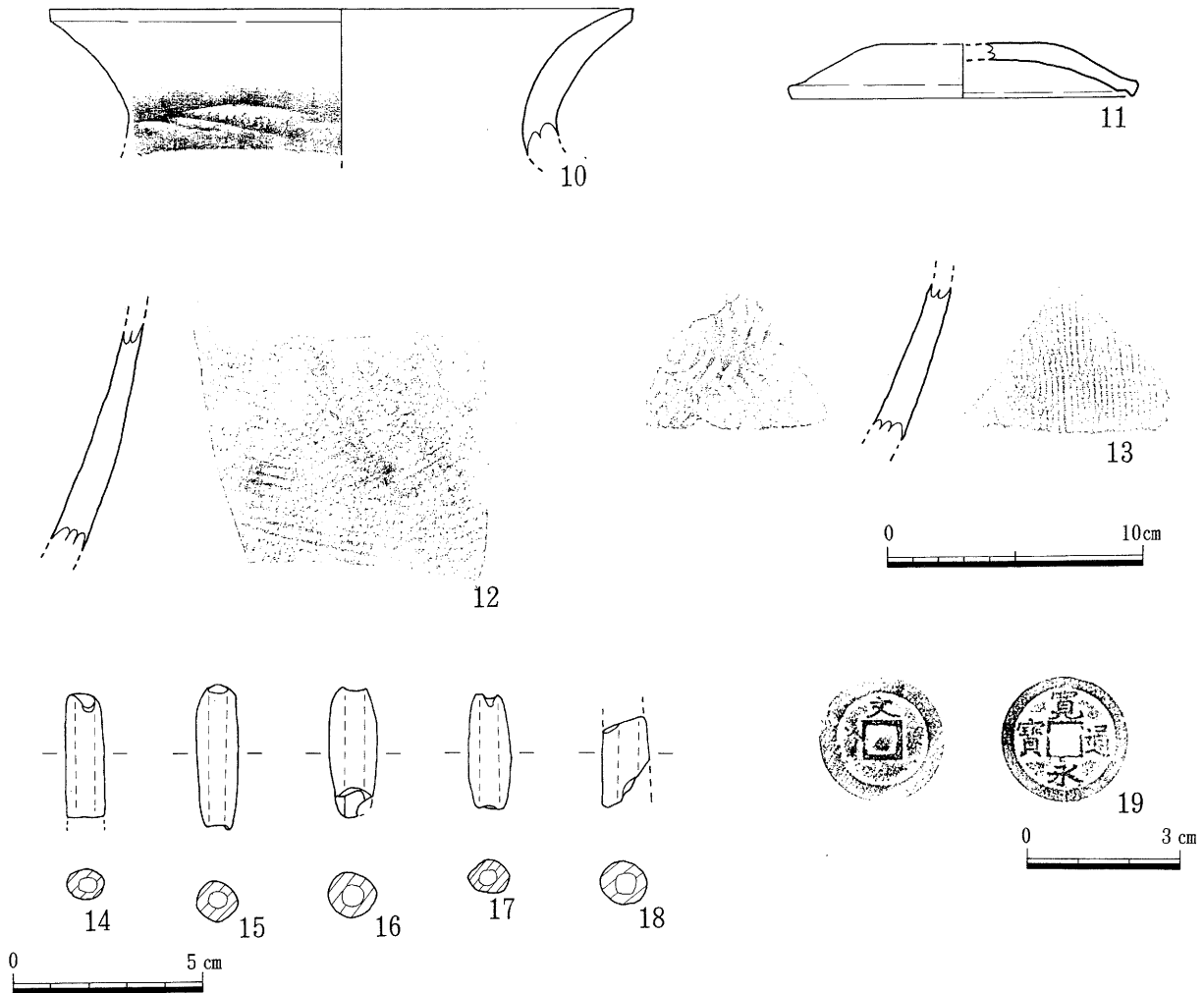
平成6年4月、文化係職員が文化財パトロールの為、国史跡南方古墳群の見回りを実施中に同39号墳（以下浄土寺山古墳とする）の前方部が削平を受けているのを発見し、直ちに地主に工事の中止を指示し、事業目的を照会した。それによると、現在前方部にある豚舎を解体して、削平地に移転建築し、墳丘南側にある石垣を数m古墳側を削って移動させたいとのことであった。市教育委員会では、同古墳の学術的重要性などから、早速県文化課と現地調査を行って状況を把握し今後の対応を協議した。その結果以下のとおりとした。①削平を受けた前方部は指定地番から外れ、指定地を示す標柱列の外側にあたることから、遺憾ではあるが現状変更申請の対象にはならない。②指定地番からはずれているが、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」にあたり文化財保護法の57条の2第1項に基づく手続きが必要である。③まだ削平されていない石垣の移設計画については、安全対策上約0.8mを限度として認め、その部分及び倉庫予定地は発掘調査が必要である。④現在、史跡指定地番が十分でないため、今後指定拡大の必要がある。⑤古墳の範囲については、地主側に標柱列内のみに限定されないよう認識していただくように広報活動を行う。⑥墳丘上には、竹等が繁茂しており古墳として認識しにくいいため、ある程度の伐採を行い全景が判別できるようにする。その後、以上の点について、地主側と協議を重ねた結果、概ね了承を得るに至り、発掘調査必要箇所については市教育委員会が実施することとした。発掘調査は、文化財保護法第57条の2第1項に基づく書類提出を受けて、平成6年11月7日から同月29日にかけて実施した。



第23図 浄土寺山古墳後円部土層断面図



第24図 浄土寺山古墳出土遺物実測図



第25図 浄土寺山古墳出土遺物実測図

(3) 調査の概要

今回の発掘調査では、削平を受けた前方部の倉庫予定地（2トレンチ）及び後円部の石垣建設予定地（1トレンチ）のトレンチ調査と浄土寺山古墳の墳丘上にある竹などの間伐並びに墳丘測量を実施した。

調査の結果、1トレンチは、現在の石垣建設時のカクランを受けており、遺物包含層は確認されなかったものの、一括資料などでカキなどの貝殻片、縄文土器、石鏃、打製石斧、須恵器、古銭などが検出された。2トレンチは、今回の工事で削平を受けた部分であったが、さらに約1m下までカクラン層が見受けられ縄文土器、須恵器、土錘が一括して検出された。その下層は、AT火山灰層下の黄褐色粘土層が観察された。また、浄土寺山古墳の墳丘測量の結果、前方部はほとんど破壊を受け詳細は不明であった。後円部は裾部分が削平を受けているがほぼ原形を止めており、現存直径約36mを測り、段築が二段確認された。削平された前方部の土層観察によると、後円部頂上より約3.7m下から旧表土層が確認され、そのレベル付近が段築部分にあたることが判った。このことは、本墳が地山整形せず自然丘陵を生かして二段目の墳丘を築造し、その盛り土は一段目の外側を削った土を利用したことを示している。また、墳丘東側には鳥居龍蔵の調査時の残土と思われる不自然な張り出しが見受けられた。

今回の調査では、現状変更に伴う緊急調査であったが、墳丘測量の実施など一定の成果を得ることができた。今後は、5世紀前葉とされている浄土寺山古墳の築造時期を判断できるような範囲確認調査の実施や詳細な遺物の検討と、隣接する24号墳や大貫貝塚とを関連させた保存整備計画を策定する必要があるだろう。

(4) 出土遺物

1トレンチ(1・3~9・13・19)、2トレンチ(2・10~12・14~18)のいずれも一括資料である。1~6は、いわゆる塞ノ神式土器である。2は口縁部で連続貝殻刺突文が2列みられ、口縁端部にも貝殻文が施されている。1・4は頸部でその他は胴部にあたる。7・8は石鏃である。いずれも乳白色を呈する大分県姫島産の黒曜石製である。7は一部欠損がみられるが、いずれも片面には主要剝離面が残る。9は安山岩製の打製石斧である。10~13は須恵器である。10は大甕の口縁部で、頸部には平行タタキの当て具痕が見受けられる。12・13は大甕の胴部で同心円文、平行タタキの調整痕がみられる。14~18は土錘である。直径約1.1~1.3cm、長さ約3~3.8cmを測る。19は「寛永通寶」である。直径2.6cmを測る。裏面には「文」の銘がある。(山田)

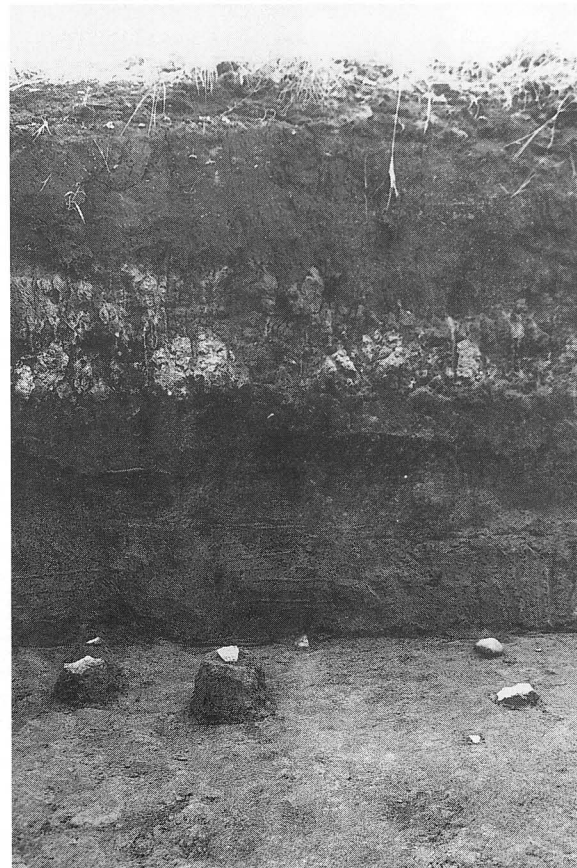
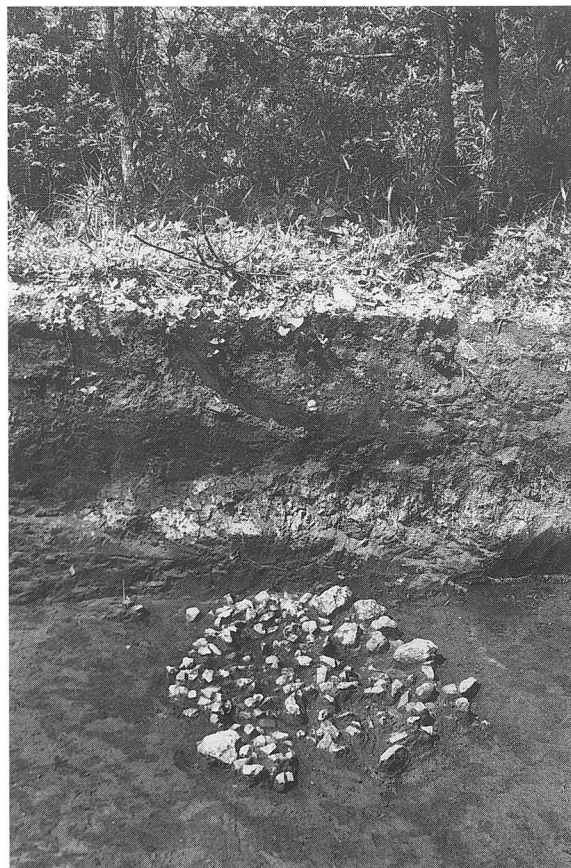
黒土田遺跡



(上) 黒土田遺跡標準土層 A地区

(左下) 縄文早期集石遺構 A地区

(右下) 旧石器出土状況 A地区



赤木遺跡第2地点

調査区全景
(西方から)



調査風景



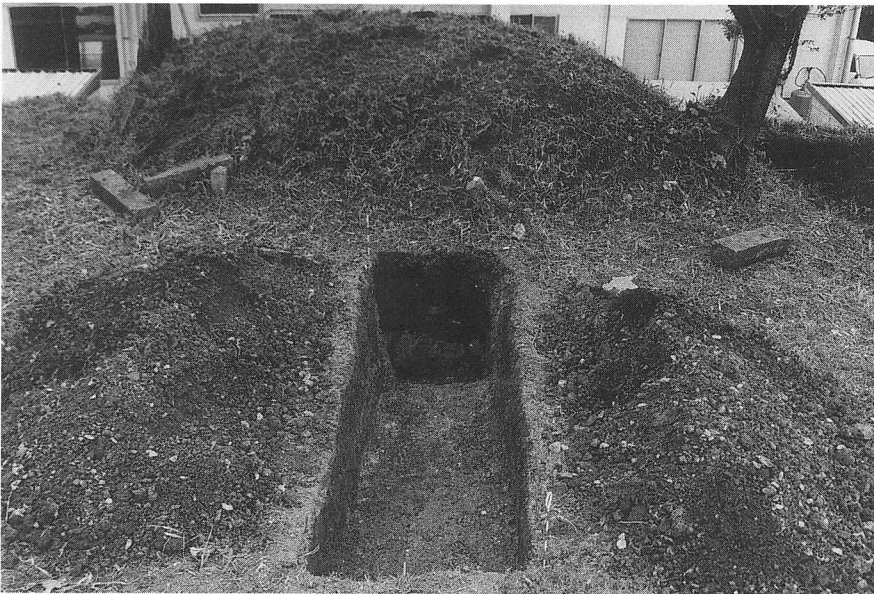
21号墳清掃風景



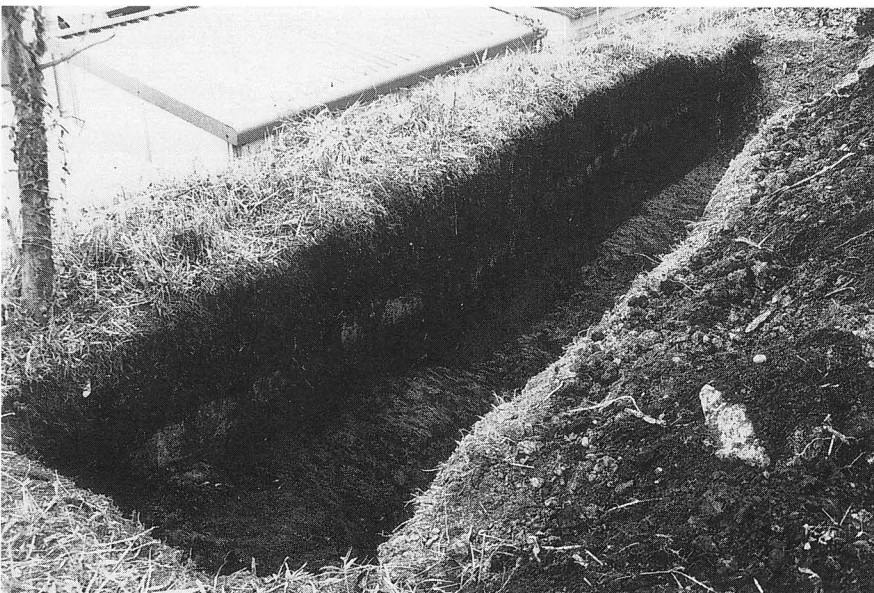
赤木遺跡第2地点



21号墳清掃後



21号墳第1 トレンチ
(北方から)



21号墳第2 トレンチ
(北東方から)

赤木遺跡第2地点

22号墳清掃前



22号墳清掃後



表採遺物



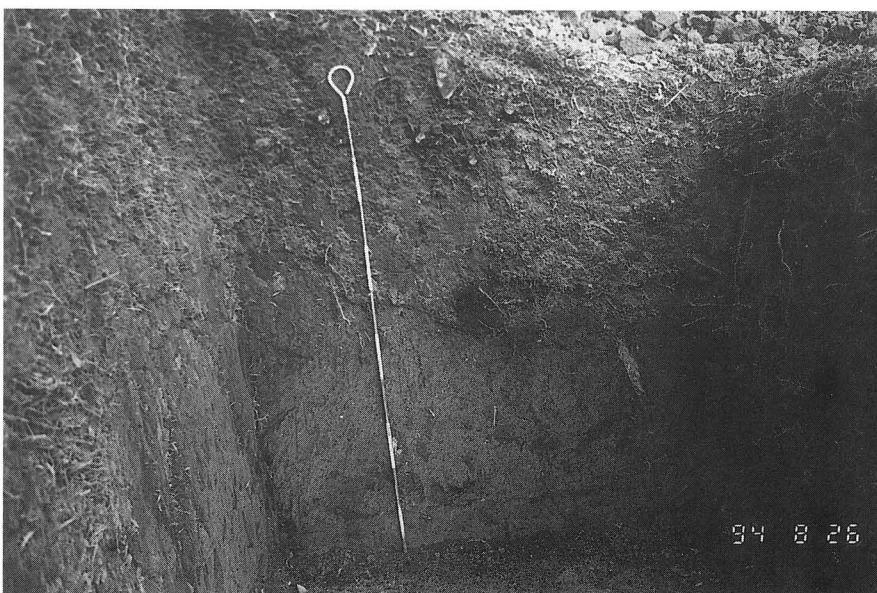
上無田遺跡



A地点近景
(東方から)



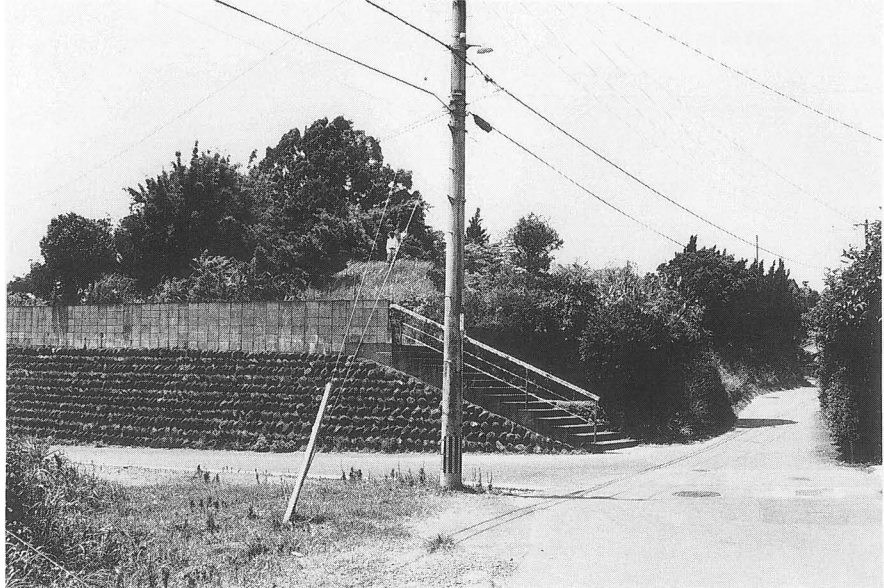
A地点調査状況
(西方から)



A地点トレンチ土層
断面

上無田遺跡

B地点近景
写真中央付近が
33号墳
(東方から)



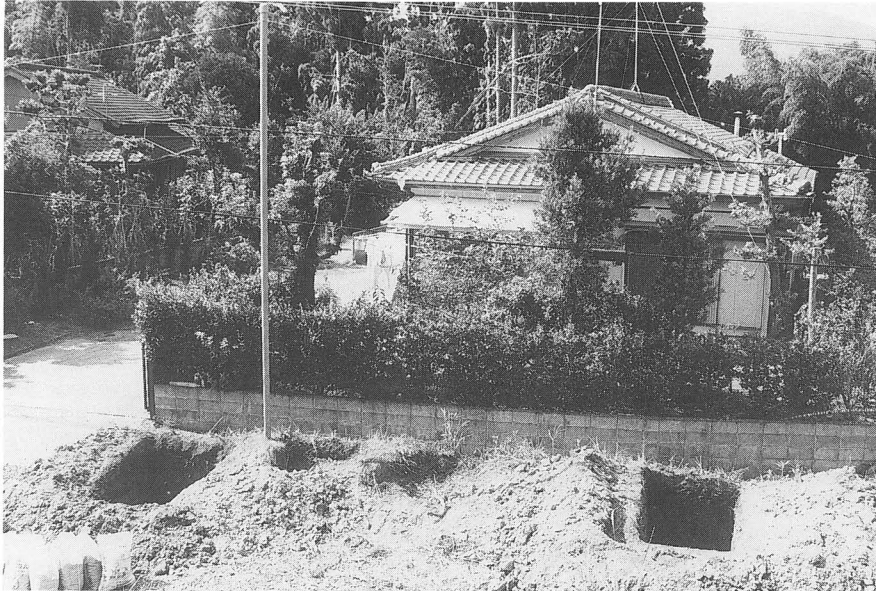
B地点近景調査前
(西方から)



B地点
33号墳清掃状況



上無田遺跡



B地点
トレンチ配置状況
左から1・2・3ト
レンチ



B地点
トレンチ土層断面



B地点調査後
(南方から)

平野遺跡

平野遺跡近景
(調査前)



調査風景

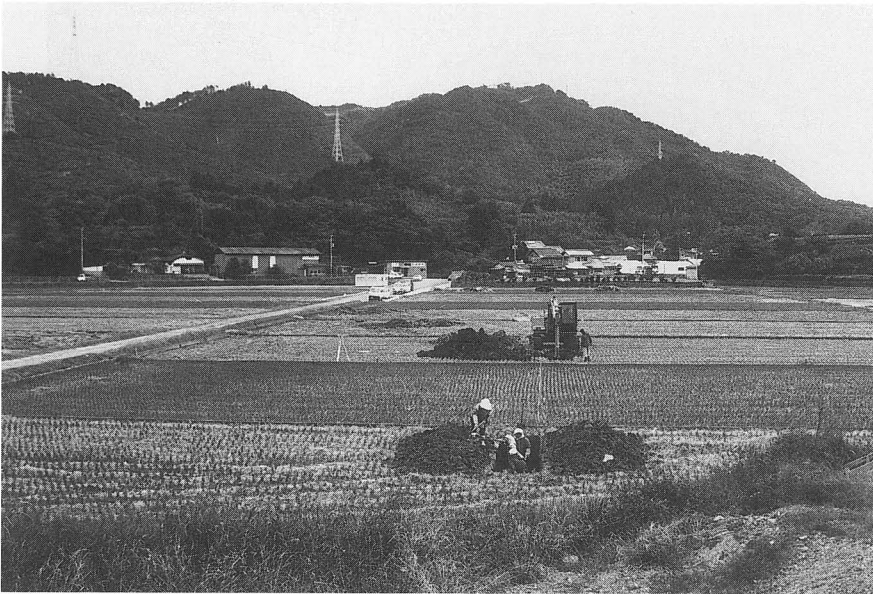


トレンチ土層断面

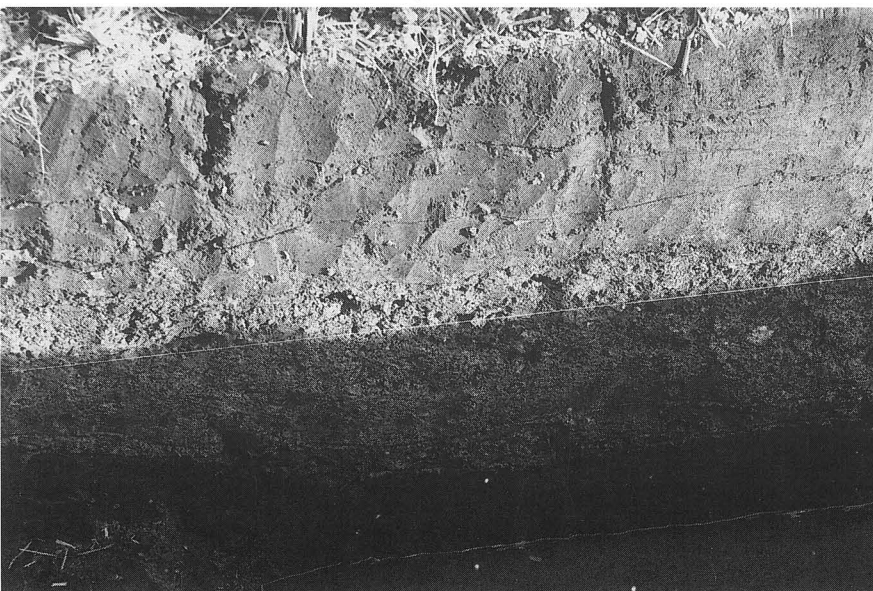
上麦野遺跡



遺跡遠景
(愛宕山から)



トレンチ配置状況
(南方から)



トレンチ土層断面
(2 トレンチ)

上麦野遺跡

調査状況
(4トレンチ)



水路状遺構
検出状況
(4トレンチ)



水路状遺構
検出状況 2
(4トレンチ)



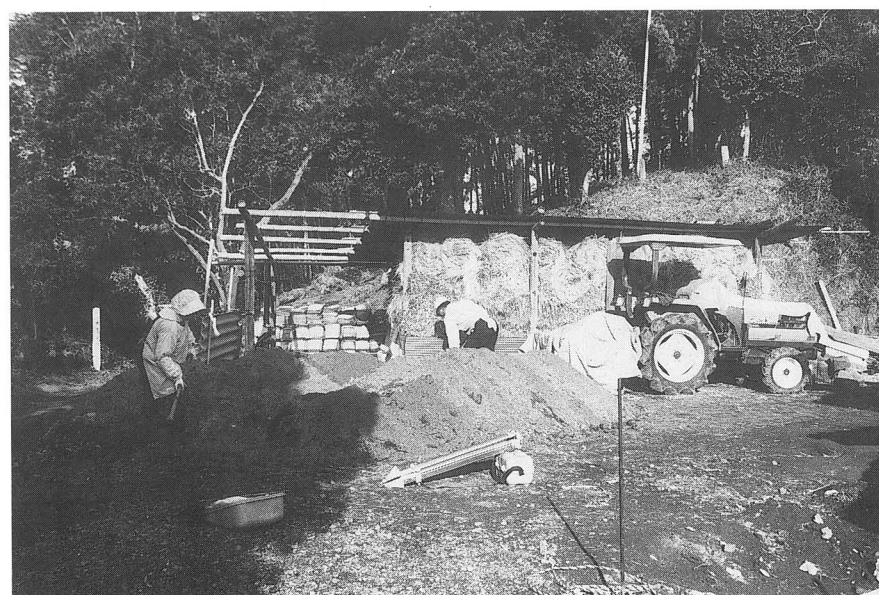
浄土寺山古墳



古墳遠景
(33号墳から西方を
望む)



古墳近景



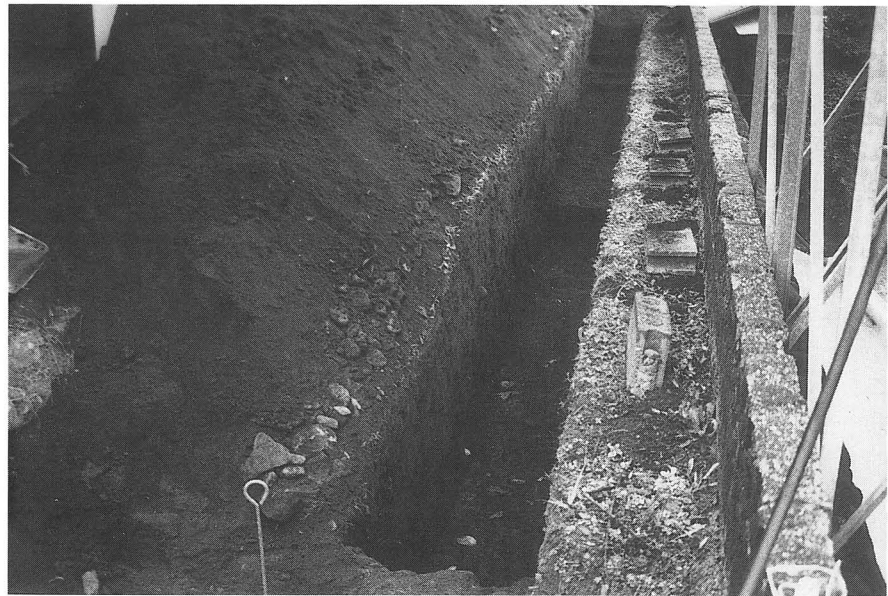
前方部削平状況
(南方から)

浄土寺山古墳

後円部南側削平状況
(西方から)



調査状況
(1トレンチ)



後円部土層断面
中央付近は旧表土



報 告 書 抄 録

ふりがな	くろつちだ あかぎ かみむた ひらの かみむぎの じょうどじやま
書名	黒土田遺跡 赤木遺跡第2地点 上無田遺跡 平野遺跡 上麦野遺跡 浄土寺山古墳
副書名	平成6年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
著者名	山田 聡、尾方農一
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くろつちだ 黒土田遺跡	のべおかし ほそみちよう 延岡市細見町 くろつちだ 字黒土田	452033		32° 32' 56"	131° 35' 18"	1994 0622 \ 1995 0125	1,000㎡	農業関連
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	先土器 古墳	集石遺構 堅古墳		石器、縄文土器 須恵器、土師器				
あかぎ 赤木遺跡 第2地点	のべおかし まいのちよう 延岡市舞野町 あかぎ 字赤木	452033		32° 31' 49"	131° 35' 37"	1994 0629 \ 1994 0630	7㎡	駐車場建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	先土器 古墳	古墳周溝		須恵器		国史跡隣接地		
かみむた 上無田遺跡	のべおかし のじちよう 延岡市野地町 かみむた 字上無田	452033		32° 34' 9"	131° 37' 4"	1994 0818 \ 1994 0902	30㎡	市道改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳	無		無		国史跡隣接地		
ひらの 平野遺跡	のべおかし のじちよう 延岡市野地町 ひらの 字平野	452033		32° 33' 34"	131° 38' 40"	1994 1005 \ 1994 1011	60㎡	中学校 用地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	中世	無		無				
かみむぎの 上麦野遺跡	のべおかし かただちよう 延岡市片田町 かみむぎの 字上麦野	452033		32° 32' 43"	131° 37' 35"	1994 1102 \ 1994 1011	65㎡	市道改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
水田址	江戸 大正	水路状遺構		陶磁器				
じょうどじやま 浄土寺山古墳	のべおかし おおぬきちよう 延岡市大貫町 じょうどじ 字浄土寺	452033		32° 34' 5"	131° 37' 18"	1994 1107 \ 1994 1129	25㎡	倉庫、石垣 建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
古墳	縄文 古墳	無		縄文土器、打製石斧 須恵器		国史跡隣接地		

平成6年度 市内遺跡発掘調査事業に伴う

埋蔵文化財調査報告書

1995年3月

編集・発行 延岡市教育委員会

宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷 (資) ながと印刷

宮崎県延岡市出北4丁目2479